

四日市大学社会連携報告書

2021 年度版
(令和 3 年度)

目 次

はじめに	1
1 社会連携センターの活動		
1-1 社会連携センターの動き	3
1-2 研究機構	4
1-3 ボランティアセンター	5
2 地域と連携する授業		
2-1 四日市学(全学共通)	6
2-2 市民教育(全学共通)	6
2-3 人権論(全学共通)	7
2-4 地域社会と環境(全学共通)	7
2-5 地域防災(全学共通)	8
2-6 地域連携特別講義a(全学共通)	8
2-7 地域連携特別講義b(全学共通)	9
2-8 インターンシップ(全学共通)	9
2-9 社会調査実習1・2(全学共通)	10
2-10 おもてなし特別講義a、b(全学共通)	10
2-11 行政法(総合政策学部 専門教育)	11
2-12 地域産業論(総合政策学部 専門教育)	11
2-13 地域開発論(総合政策学部 専門教育)	12
2-14 食とまちづくり(総合政策学部 専門教育)	12
2-15 祭りとまちづくり(総合政策学部 専門教育)	13
2-16 音楽とまちづくり(専門教育)	13
2-17 鉄道とまちづくり(総合政策学部 専門教育)	14
2-18 コミュニティ論(総合政策学部 専門教育)	14
2-19 地方議会論(総合政策学部 専門教育)	15
2-20 NPO論(総合政策学部 専門教育)	15
2-21 起業論(総合政策学部 専門教育)	16
2-22 四日市公害論(環境情報学部 専門教育)	16
2-23 地域環境論(環境情報学部 専門教育)	17
2-24 環境研修b(環境情報学部 専門教育)	17
2-25 土壌学(環境情報学部 専門教育)	18

3 高大連携

3-1 総合政策学部の高大連携授業～北星高校の1年生ゼミへの参加	……	19
3-2 環境情報学部の高大連携授業	……	20
3-3 2学部共同の高大連携授業	……	21
3-4 東日本大震災支援活動と学校間連携	……	22

4 教職員による地域活動

4-1 留学生による地域社会との交流	……	23
4-2 一般社団法人四日市とんてき協会	……	24

5 学生による地域活動

5-1 地パト(四日市大学地域パトロール部)	……	25
5-2 四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」	……	26
5-3 わかもの学会	……	27

6 生涯学習・公開講座

6-1 みえアカデミックセミナー	……	28
6-2 四日市大学公開講座	……	29
6-3 四日市市民大学 一般クラス	……	30
6-4 履修証明プログラム	……	31
6-5 政策・戦略企画力養成プログラム(BP)	……	32
6-6 社会人を受け入れる教育プログラム	……	33

7 調査研究

7-1 四日市大学研究機構 関孝和数学研究所	……	34
7-2 四日市大学研究機構 公共政策研究所	……	35
7-3 四日市大学研究機構 生物学研究所	……	36
7-4 四日市大学研究機構 環境技術研究所	……	37
7-5 四日市大学研究機構 地域農業研究所	……	38

8 NPO等(四日市大学に所在)

8-1 四日市北ロータリークラブ	……	39
8-2 NPO法人市民社会研究所	……	40
8-3 一般社団法人四日市大学エネルギー環境教育研究会	……	41
8-4 四日市東日本大震災支援の会	……	42
8-5 メディアネット四日市	……	43

資料A 学外委員会での活動(委員会名・役職名のリスト)	……	44
資料B 学外での講演活動等	……	47

はじめに

四日市大学は1988年の開学以来、「世界を見つめ地域を考える」をスローガンに、地域重視の取組を行ってきました。2013年度に学長声明「本学の使命に基づく社会連携の推進について」（下記）を発売し、2014年度に文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(以下COC事業)」に採択されたことから、四日市大学の「社会連携」は飛躍的に前進しました。COC事業に取り組んだ5年間、三重県、四日市市をはじめ、地域の企業、メディア、市民団体など各界の皆様のご協力をいただきながら、地域と共に多様な教育・研究・社会貢献活動を進めてきました。

本冊子は、2018年度でCOC事業が終了した後、このレガシーを基に、新たな段階に入った四日市大学の社会連携活動の2021年度一年間の取組をとりまとめたものです。コロナ禍の影響はあったもののさまざまな分野で、四日市大学が地域とのつながりを深めていることを感じていただければ幸いです。

2020年には、今後も地域社会とともに活動していく大学としてのコーポレートアイデンティティとして「Act 4U」を定め、次頁のロゴタイプを活用し、大学内外に社会連携に取り組む本学をアピールしています。本学の社会連携の基本理念を表現するものとして、紹介させていただきます。

四日市大学学長・社会連携センター長 岩崎 恭典

◎本学の使命に基づく社会連携の推進について(学長声明の全文)

四日市大学は、地域の積年の念願として、四日市市と学校法人暁学園の公私協力により、昭和63年(1988年)に開学した。設立に当たり作成した四日市大学設置認可申請書において、「地域社会と共生する地域貢献型大学」を基本理念に掲げており、地域と共にあることが本学の使命であることは設立時より明示されている。

以後25年間にわたり、「世界を見つめ地域を考える大学」をスローガンに掲げ、3学部(経済学部・環境情報学部・総合政策学部)において、「地域を創る人材」の育成や地域とつながる研究や社会貢献活動を実践し、多くの成果を上げてきた。これらの取り組みをさらに全学的に推進するため、平成25(2013)年4月には社会連携センターを設置し、「本学の学術研究及び人材を通して社会との連携活動を幅広く推進することにより、地域社会の発展及び本学の研究、教育の進展に資することを目的とする」ことを規程に定めた。これは本学の社会連携が、地域貢献はもとより、地域と連携することで本学の研究、教育を豊かにするという双方向性を志向するものであることを、全学的な方針として明確化したものである。

文部科学省では、平成25年度から、自治体等と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学を支援する「地(知)の拠点整備事業」を開始した。これは、全学的に地域再生・活性化に取り組むと同時に、教育カリキュラムや教育組織の改革など大学のガバナンス改革につなげようとするものであり、各大学の強みを活かした大学の機能別分化を志向するものである。すなわち、個々の大学に今後の大学のあり方の選択を迫るものということができる。

今、本学は少子化に伴う厳しい経営環境に直面している。この状況を乗り越えるためには、本学が四日市市と連携し、地域と共に発展してきた強みを生かし、地域の知の拠点としての存在感を高め、地域から欠くことのできない有用な存在として認識されること以外にはありえない。それは、本学が一方向的に地域に貢献するというのではなく、学生が地域の中でたくましく育てられ、本学の教育・研究が地域とつながることで豊かになることでもある。

文部科学省が行うこの事業は、本学にとって原点に立ち返るための起爆剤となりうるものである。本学の使命に立てば、今こそ全ての教職員が一丸となって、全学的な議論と研修を深め、自分のできることを実行することが求められる。また、全学的なガバナンス改革に組織を挙げて取り組む必要がある。

私自身が先頭に立ってこの取り組みを推進する決意であることを申し上げると同時に、すべての教職員にもこのことを深く自覚していただき、この困難な時代に何をなすのかを自らに問うていただき、主体的に取り組んでいただくことを期待する。

2020年4月～



Act4U

四日市の未来を動かす。

まちをもっと沸かせたい。人のために役立ちたい。
この熱い想いを、行動に変えていく。
私たちの決意表明が、「^{アクトフォーユー}ACT4U」。
for you=地域の未来を動かすアクション。
4日市 University から、広げていきます。

総合政策学部 | 地域・まちづくり分野/国際・経営分野/スポーツ・人間分野 | 環境情報学部 | 自然環境分野/メディア情報分野

 四日市大学

2021年3月～



Act4U

四日市の未来を動かす。

まちをもっと沸かせたい。人のために役立ちたい。
この熱い想いを、行動に変えていく。
私たちの決意表明が、「^{アクトフォーユー}ACT4U」。
for you=地域の未来を動かすアクション。
4日市 University から、広げていきます。

 四日市大学

1-1 社会連携センターの動き

活動の目的と経緯

2013年4月、学内外に対して社会連携活動を一元的に所管する部署として、「社会連携センター」が設置されました。そして、学内全体に社会連携活動が一定程度浸透したことを受け、21年4月からは事務局社会連携課のもとに「社会連携センター」は位置づけられることになりました。

社会連携センターは、設置規程において「本学の学術研究及び人材を通して社会との連携活動を幅広く推進することにより、地域社会の発展及び本学の研究、教育の進展に資することを目的」としています。本学の社会連携が、大学の資源を生かして地域に貢献するという側面だけでなく、地域と連携することによって本学の教育・研究を豊かにしていくという、双方向性を志向するものとしています。

活動内容と実績

社会連携センターに係るものとして、2021年度は主として次の活動を行いました。

① 地(知)の拠点整備事業(COC事業)の成果の全学的な拡大

2014年度に採択された文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」は、地域の行政、産業界、メディア、市民団体等の方々からなる「四日市大学地／知の拠点運営協議会」からさまざまなご意見をいただきながら推進しました。「COC事業後」はこの仕組みをさらに発展させるため、新たに高校及びメディア部門を強化した「四日市大学地域連携プラットフォーム」を設置しています。事務局社会連携課が所管し、21年度は、コロナ禍のため全体会議は一回のみの開催としました。

COC事業の中でも高評価であった、学生の学びの成果を地域に発信する「わかもの学会」及び「ボランティアセンター」は、学生教育の中核である教育・学生支援部教学課へ移管し、コロナ禍のため大きく活動制限があるなかで、「わかもの学会」大会は感染対策に万全を期したうえで実施することができました。しかし、18年度から2年間実施した「地域連携スポーツフェスタ」は、担当課を庶務課と定め、教職協働の委員会設置に向けて取り組んだものの、大会自体はコロナ禍のため実施に至りませんでした。

このように、コロナ禍で大きく制約を受けながらも、四日市大学の社会連携が、社会連携センター内にとどまるものから、なお一層全学的な広がりを見せた1年となりました。

② その他の取組

COC事業以外にも、研究成果の学外発信、多様な地域連携活動を行いました。その全体像を示すものが、まさに、この社会連携報告書であるということが出来ます。

今後の計画

本学が名実ともに「地／知の拠点」として地域から広く認知されるよう、社会連携センターを窓口として、COC事業のレガシーを活かし、多様な主体と連携する新たな大学づくり・地域づくりに取り組んでいきます。

担当部門 : 事務局社会連携課

連絡先 : 電話 059-340-1927 メール : renkei@yokkaichi-u.ac.jp

1-2 研究機構

活動の目的と経緯

社会連携センターは、研究機構を内部組織として有しており、研究機構は、競争的研究資金を獲得して、その研究活動を深化拡大するのを援助するとともに、研究を通じて得た知見を講義などの教育に反映させて、本学の研究教育の水準を向上させることを目的としています。そのために、文部科学省からの科学研究費を含む国や民間の研究助成金等の募集情報を配布するとともに、科研費獲得講座を開催し、また、学生に対しては、研究倫理教育のオンデマンド教材を作成しています。

現在、研究機構には以下の5研究所を設置しています。

- (1) 関孝和数学研究所 (2009年4月設立)
- (2) 公共政策研究所 (2009年10月設立)
- (3) 生物学研究所 (2014年9月設立)
- (4) 環境技術研究所 (2014年10月設立)
- (5) 地域農業研究所 (2018年7月設立)

活動内容と実績

文部科学省・科学研究費(科研費)採択数増加を目指して、科研費申請説明会を実施しました。また、学内研究費の傾斜配分を導入し、科研費不採択であってもA評価を受けた教員に対して追加の研究費を支給することとしました。その結果、徐々にではありますが、科研費申請件数が増加しつつあります。

本学が独自に研究助成を行う特定プロジェクト研究については、前年度に引き続き次の4件を採択しました。

- (1) 「四日市市における食品ロスの削減を目指す、分野横断的SDGs連携モデルの推進とコレクティブ・インパクトの研究」(研究代表者：総合政策学部教授・松井真理子)
- (2) 「地方創生に資する北勢地域の森林再生と農林業振興」(研究代表者：環境情報学部准教授・廣住豊一)
- (3) 「AIを用いた予測・分類システムの開発」(研究代表者：環境情報学部准教授・片山清和)
- (4) 「地域を拓く未来企業に関する研究」(研究代表者：総合政策学部准教授・岡良浩)

さらに、本学の多様な研究を総合的に把握し、学内での情報を共有するために、本学教員の年間の研究テーマ一覧を作成しました。また年度初頭には前年度の研究実績一覧も作成しました。研究予定テーマ、実績とも研究機構ホームページに掲載しています。

ほかに、『YURO2021』の刊行、学生、教員、関係職員に対する倫理教育(全員受講)などを行いました。

今後の計画

引き続き研究の活性化を目指して多様な取組を実施します。

担当部門 : 研究機構

連絡先 : 電話 059-365-6712 メール : yuro@yokkaichi-u.ac.jp

1-3 ボランティアセンター

活動の目的と経緯

四日市大学ボランティアセンターは、平成 25 年 9 月に設置されました。学生ボランティアの依頼・参加申込の窓口として、学生と学外依頼者のマッチングを行っています。平成 27 年度からは、学生全員をボランティア登録し、原則として全員にボランティア依頼情報を送信する仕組みを導入しました。

ボランティアセンターの目的は、①学生の主体的なボランティア活動の振興、②ボランティア活動を通じた学生の人間的成長と本学の地域貢献力の向上、の 2 点です。この目的の実現に向けてボランティア依頼方法や最新の募集情報をホームページに公開し、学生・学外の方への周知を図っています。

活動内容と実績

ボランティア活動の状況（ボランティアセンターを通じて申し込んだ活動のみ）

年度	項目	依頼件数	学生参加件数	参加率	学生参加者数	
					延べ	実数
令和元年度		38 件	20 件	53%	168 人	65 人
令和 2 年度		10 件	4 件	40%	45 人	11 人
令和 3 年度		10 件	4 件	40%	33 人	11 人

令和 3 年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各種イベントが規模縮小傾向にあり、ボランティア依頼件数も概ね前年度同様となりました。依頼団体による報告書において、小学生の自然体験見守りボランティアでは子どもたちに寄り添い様々な質問に答える姿に、また、高齢者世帯の草取りやスマートフォン操作補助のボランティアではまじめに取り組む姿に、いずれも高い評価をいただきました。次年度も是非参加してほしいとの声をいただいています。

今後の計画

令和 4 年度も新型コロナウイルスの影響が懸念されますが、学生の安全確保を徹底したボランティア依頼については速やかに周知し、本学学生が地域に貢献できるようマッチングを行います。

担当部門 : 四日市大学ボランティアセンター

連絡先 : 電話 059-365-6599 メール : vol-center@yokkaichi-u.ac.jp

2-1 四日市学(全学共通)

活動の目的と経緯

四日市市を対象として、地域の社会、歴史、文化、自然、産業、環境などの現状を学び、この地域の将来の発展方向を考えることをねらいとしています。

活動内容と実績

授業は、感染状況と受講者の数から、基本的にオンデマンド型で行うこととしました。座学は、「地域と宗教的文化・伝統」(ゲスト講師)、「四日市公害に向き合う」、「四日市の産業」、「ふるさと・四日市の文学者たち」、「四日市の抱える今日的課題～人権問題～」、「四日市の歴史」(ゲスト講師 四日市市博物館学芸員)、「四日市市の発信～シティプロモーション戦略～」。

ゲスト講師にもオンデマンド型で協力をいただきました。予定していたフィールドワークは、「四日市市博物館で学ぶ」をバーチャル(現地で撮影した動画を配信)で実施、「四日市で学ぶ ～市内の名所・名産を体験～」は感染対策をしながら、市立博物館見学か、四郷の歴史的建造物などを観て歩くフィールドワークの、どちらかを選択させました。

今後の計画

次年度 23 カリキュラムでは、必修科目になり、新しいコンテンツを検討し実施していく予定です。

担当部門 : 学部共通 担当教員名 : 鬼頭浩文、岡良浩、李修二、永井博

2-2 市民教育(全学共通)

活動の目的と経緯

若い世代が主権者としての基礎的な力を養成できるよう、入門的な主権者教育を行います。三重県や四日市市において、市民としての権利と責任を自覚し、行動することができる人材の養成を目指します。

活動内容と実績

以下のような体系のもと、令和3年度も行政の仕組みや情報公開請求等、三重県や四日市市の具体的な素材を使い、地域についての理解を深めるとともに、普遍的な主権者教育となるよう配慮しました。

- 1 主権者としての基礎知識 : 日本国憲法と人権、国や自治体の仕組み、税、社会保障、労働
- 2 制度への参加 : 裁判員制度、検察審査会、住民参加の諸制度
- 3 身近な社会への参加 : 選挙、消費者としての参加、市民活動、SNS、話し合いの技法
- 4 世界と自分とのつながり : SDGs、平和、環境(消費者としての参加と重複あり)

今後の計画

より充実した主権者教育になるよう、学生の参加型授業となるよう工夫を重ねていきます。

担当部門 : 総合政策学部 担当教員名 : 松井真理子

2-3 人権論(全学共通)

活動の目的と経緯

人権の基本を理論的に学ぶとともに、差別を受けやすい立場の人たちの課題について、地域の当事者を招いた対話などを行い、誰もが安心して暮らせる社会の重要性を理解する講義を行います。

活動内容と実績

以下のような体系のもと、普遍的な人権について学ぶとともに、特にマイノリティの人権に関しては、障害者団体や人権に取り組む団体の協力を得て、地域における人権課題やそれへの対応について理解が深まるよう配慮していますが、令和3年度も在日コリアンの方にご協力をいただきました。

- 1 人権の基本：人権の歴史、体系（自由権、社会権、参政権、新しい人権など）
- 2 マイノリティの人権：障害がある人、外国人、子ども、部落問題など
- 3 暮らしの中の人権：患者の人権、地域社会と人権、個人情報保護など

今後の計画

より充実した人権教育になるよう、学生の興味を喚起する授業となるよう工夫を重ねていきます。

担当部門：総合政策学部

担当教員名：松井真理子

2-4 地域社会と環境(全学共通)

活動の目的と経緯

地域の環境問題として「里山の衰退」、「獣害問題」、「外来生物問題」をとりあげます。これらの原因となる社会的背景や解決のために地域でどのような取り組みが行われているのかについて学びます。

活動内容と実績

「里山」や「獣害」、「外来生物」についての基礎的な事柄を学ぶと同時に、地域で生じている様々な環境問題に対して具体的な事例を示すことで、これらを自分たちの身近な問題として認識し、考えるきっかけとしました。また、問題解決のために、地域住民や行政、研究者が連携して保全活動に取り組んでいる事例を紹介しました。本年度は、地域の環境保全活動に学生自らが主体的に参加してくれることを期待して講義を組み立てましたが、講義を受講した学生の中には、このような活動に興味を持ち、実際に「なごや生物多様性保全活動協議会」が実施した保全活動に参加した学生もいました。

今後の計画

環境問題を身近な問題として考え、主体的に取り組むことのできる学生の育成に努めます。

担当部門：環境情報学部

担当教員名：野呂 達哉

2-5 地域防災(全学共通)

活動の目的と経緯

講師に、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘し、実践的な講義を市民にも開放し、NPO 法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指します。

活動内容と実績

前半の9コマでテキストを精読し、後半6コマ分を週末集中講義とし、一般の受け入れもして防災士養成講座としました。防災士養成講座としては、6/19・26・27の週末3日間とし、外部開放は人数を制限して実施しました。この3日間は、実践的な学びを重視し、県内の地域防災の最前線で活躍している消防職員、自衛隊員、市役所の危機管理室職員、社会福祉協議会職員、地域の自主防災組織の方などを講師に招聘して講座を展開しました。また、感染予防に気を付けながら、避難所運営訓練 HUG、普通救命講習、災害ボランティアセンター運営訓練も行いました。

今後の計画

次年度以降も、引き続き実施していく予定です。

担当部門 : 学部共通 担当教員名 : 鬼頭浩文ほか

2-6 地域連携特別講義 a (全学共通)

活動の目的と経緯

三重大学が中心となって取り組んできたCOC+事業の一環として、県内の各高等教育機関が共同で開設する食と観光について学ぶPBL型の科目として、平成29年度初めて開講されました。

活動内容と実績

COC+事業を機に、県内の複数の高等教育機関が初めて合同で開設した科目です。5年目となる令和3年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、前年度に引き続き本学と皇学館大のみの参加となりましたが、本学からは7名の学生が受講しました。一昨年度までと異なり、合宿は行わずオンラインも交えての授業となりましたが、学生たちは地域の方たちへの取材など、大学間の垣根を超えて活発に取り組んでいました。



松阪市内での成果発表会の様子

今後の計画

高等教育コンソーシアムみえの事業として、令和4年度以降も、継続して実施していきます。

担当部門 : 教学部 担当教員名 : 小林慶太郎 (総合政策学部教授)

2-7 地域連携特別講義 b (全学共通)

活動の目的と経緯

令和3年度に三重県内で国民体育大会（国体）が開催される予定であったことから、学生たちが、スポーツと行政について、その実情に触れ、理解を深めてくれることをねらいとして、国体について学ぶとともに、競技補助員をして実際の大会の運営にも関わっていく科目として、開講しました。

活動内容と実績

7月中に2度にわたって、四日市市役所の国体競技課の職員の方にお越しいただき、そもそも国体とは何か、国体の歴史と課題・問題点、国体の準備と予算、競技補助員の担う役割などについて、講義いただきました。それを受けて9月に競技補助員として関わる予定だった国体は、新型コロナウイルスの影響で中止となったため、やむを得ず後半は、オンライン授業に切り替えました。



市役所国体競技課職員による講義の様子

今後の計画

国体に合わせた科目であったため、令和4年度以降は、同一内容での開講は予定していません。

担当部門 : 教学部 担当教員名 : 小林慶太郎 (総合政策学部教授)

2-8 インターンシップ(全学共通)

活動の目的と経緯

大学の長期休暇などに合計10日間をフルタイムで就労体験します。

活動内容と実績

4月：説明会（CSC主催）・・・スケジュール詳細説明／申込用紙配布⇒申込用紙を提出⇒書類選考
5月下旬：ガイダンス・・・受入企業一覧配付/希望研修先用紙配付/事前研修についての連絡等
6月下旬：研修先マッチング開始 ⇒ 研修先決定
6月中旬：事前研修・・・マナー研修/インターンシップ中の心得等⇒7月下旬：直前ガイダンス
8～9月：インターンシップ研修⇒9月：事後研修・・・レポート提出⇒単位認定
以上のスケジュールで実施の予定でしたが、コロナのため研修は実施できませんでした。

今後の計画

単位認定を伴うインターンシップは、次年度以降も引き続き実施していく予定ですが、3年生には就活サイトを経由する1dayインターンシップなどにも積極的に参加を呼び掛けていきます。

担当部門 : 学部共通 担当教員名 : 鬼頭浩文ほか

2-9 社会調査実習 1・2(総合政策学部)

活動の目的と経緯

社会調査実習 1・2 は、全学共通科目の「社会調査士養成ユニット」の一部であり、(一社)社会調査協会が発行する「社会調査士」資格の取得をめざすための科目です。

活動内容と実績

この授業では、社会調査の企画・設計から実施・分析・報告に至る一連のプロセスを学生が主体的に担い、実践的に体験します。2021 年度は三重県朝日町を対象として地域の現状把握と課題の抽出をはかりました。学生は各自の関心に合わせて人口・産業・教育・防災をテーマとする小グループに分かれ、前期の「社会調査実習 1」では既存の文書資料や統計資料の分析をすすめ、後期の「社会調査実習 2」では朝日町役場・朝日小学校等の協力を得てヒアリング調査を実施しました。成果は「社会調査インターカレッジ発表会」で報告するとともに、最終レポートを執筆しました。

今後の計画

今後も地域の課題をテーマに取り上げ、本学ならではの、生きた社会調査を実施してゆきます。

担当部門 : 全学共通科目 担当教員名 : 三田泰雅

2-10 おもてなし特別講義 a、b (全学共通)

活動の目的と経緯

本講義は、おもてなしを担う企業の成功事例を理解することを目的としています。おもてなし経営が成功している企業の総合力を見ることがこの講義のねらいです。

活動内容と実績

前学期 a では、「社員・顧客・地域」を大切にする「三重のおもてなし経営」を学ぶために、三重県雇用経済部の協力を得て、三重のおもてなし経営選表彰企業(株式会社ファーストステップ、株式会社ミツイバウ・マテリアル、株式会社四日市事務機センター)の経営者に、三重のおもてなし経営のポイントはどこにあるかを対面授業でうかがいました。その後、学生グループごとに企業レポートを作成しました。

後学期 b では、様々な情報技術を使用した「おもてなし」サービスの効率化について学びました。

今後の計画

全学共通教育科目のスキル科目のなかの「おもてなし特別講義」として開講します。

担当部門 : 総合政策学部 担当教員名 : 岩崎祐子

2-11 行政法(総合政策学部 専門教育)

活動の目的と経緯

さまざまな形態で行なわれている行政活動を法的視点から意味づけ、行政活動に法がいかなる役割を果たしているかを理解することを目的に、平成30年度より、本学卒業生の四日市市役所職員の方たちに講義をしていただいています。

活動内容と実績

令和3年度は3名の卒業の方に登壇いただきました。将来、公務員になる学生はもちろんのこと、民間企業に就職する学生でも、仕事上あるいは私生活の上で、避けて通ることのできない行政法について、現職の四日市市役所職員の方に行政実務を踏まえた講義をしていただくことで、学生たちにとっては、公務員など将来の進路も意識することが出来る科目になったと考えます。実際に、この授業を受講した学生の中にも、公務員採用試験の受験を考えるようになった学生がいました。

今後の計画

令和4年度も引き続き、本学OBの四日市市役所職員の方々に担当いただく予定です。

担当部門 : 総合政策学部 担当教員名 : 小林慶太郎

2-12 地域産業論(総合政策学部 専門教育)

活動の目的と経緯

地域産業論は、総合政策学部の専門科目として地域の企業を理解する目的で開講しています。じばさん三重と連携しています。(協創ラボ)

活動内容と実績

地元企業の魅力を知ってほしいと考える、じばさん三重(公益財団法人 三重北勢地域地場産業振興センター)と連携し、夏期休業期間に1日のバスツアーを実施していました。令和3年度は、コロナ渦の影響で、バスツアーは実施できませんでしたが、それに替えて、地元企業の映像などの資料提供をうけ、地場産業や地元企業の紹介をしました。

今後の計画

地域事例は、常に最新のものを収集し講義に活用している予定です。

担当部門 : 総合政策学部 担当教員名 : 岡 良浩

2-13 地域開発論(総合政策学部 専門教育)

活動の目的と経緯

地域開発論は、地域政策のうち空間構造に関わる内容(国土計画・土地利用計画・都市計画等)を、理論と実践の双方から学ぶことをねらいとしています。(総合政策学部の専門科目)

活動内容と実績

実践については、三重県・四日市を中心とした事例を収集し講義に活用しています。

(三重県関係)

土地利用基本計画・国土利用計画・都市計画図・土地区画整理事業・公共事業の評価

(四日市関係)

四日市関係：都市計画図・都市計画制度・都市計画マスタープラン・地域・地区別構想、
近鉄四日市駅周辺等整備基本構想

今後の計画

地域事例は、常に最新のものを収集し講義に活用している予定です。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：岡 良浩

2-14 食とまちづくり(総合政策学部 専門教育)

活動の目的と経緯

食文化を通じたまちづくりに取り組んでいる方の話を伺うことなどを通じて、まちづくりの担い手として育っていくことを狙いとして、平成23年から開講しています。

活動内容と実績

令和3年度も、前年度に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、食を活かしたまちづくりイベントが軒並み中止になってしまったことから、こうしたイベントにスタッフとして参加し地域の方々とともに汗を流す経験を通じてまちづくりについて理解を深めていくといったことは叶わず、基本的に座学が中心となりました。しかし、ご当地グルメを使ってまちづくりに取り組んでいる四日市とんてき協会のスタッフの話を聴いたり、本学卒業生でもある津ぎょうざ小学校のスタッフの方に作成いただいた教材を見たりすることを通じて、食を使ったまちづくりの可能性などについて学びました。

今後の計画

令和4年度も、新型コロナウイルスの影響で地域での食のイベント等は見通せませんが、この授業を通して、地域の未来を考えまちづくりの明日を担っていく学生を、育成する予定です。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：小林慶太郎

2-15 祭りともちづくり(総合政策学部 専門教育)

活動の目的と経緯

担い手が高齢化している「大入道山車」「鯨船」等四日市市内の山車の維持のために、若者は何ができるか。「祭り」の意義を、実際に祭りに参加することを通じて学修することを目的としています。

活動内容と実績

2009年に人口減少・高齢化に悩む地元大入道山車保存会からの依頼に応え、祭りを体験することにより、祭りの意義と保存・継承に若者が果たす役割を考えるこの講義は、年々その内容が充実してきています。21年度は祭りの意義や大四日市祭の歴史を学ぶ講義5回、「大入道山車」「岩戸山」「富田鯨船 中島組」保存会会長による座学4回を実施しましたが、コロナ禍のため、大入道山車と鯨船の組み立て見学、大四日市祭への参加、鳥出神社祭礼への参加など、肝心の実習機会を持つことができませんでした。座学だけで、また、映像等を通じて、地域やお祭りを維持しようとする熱い人々の実態を学ぶ有意義な機会を持つことができました。

今後の計画

所詮学生は「風の人」。祭りをできるだけ地元の人々(「地の人」)の参加で支える仕組みを検討します。

担当部門 : 総合政策学部 担当教員名 : 岩崎 恭典

2-16 音楽ともちづくり(専門教育)

活動の目的と経緯

この授業では、「四日市 JAZZ フェスティバル」を通じて、街のにぎわいを創り出そうと取り組んでいる方々を講師に迎えて話を聞き、実際に2日間のイベントにスタッフとして参加するものです。

活動内容と実績

コロナのため、イベントの中止が決まったため、2021年度は不開講としました。

今後の計画

新しい23カリキュラムでは、両学部とも閉講となりますが、コンテンツは総合政策学部の「市民ともちづくり」(2年生配当)に引き継がれ、3~5コマの授業とし、イベントへのスタッフ参加は、「ボランティア活動 a・b」で認定していく方向で調整中です(2024年度より)。17カリキュラムである2022年度以前の入学生に対しては、総合政策学部が2年次配当のため、2023年度まで現状通りに開講する予定です。

担当部門 : 総合政策学部・環境情報学部 担当教員名 : 鬼頭・前川・関根

2-17 鉄道とまちづくり(総合政策学部 専門教育)

活動の目的と経緯

車社会で育った学生が、移動困難者が多くなる時代に向けて、公共交通を存続させる意義について学び、具体的に地方鉄道の維持・活性化方策を考え、実践していくことが本講座の目的です。

活動内容と実績

2008年、三岐鉄道と日本民営鉄道協会が総合政策学部へ寄付講座を開設していただいたことを契機に、翌年度、どうしたら地方鉄道を維持できるかを検討しました。その結果、三岐鉄道北勢線に「サンタ電車」を走らせようと学生が企画し、10年度から19年まで続けました。コロナ禍のため、20年度は、座学と現地視察で地方鉄道の現状を学び、コミュニティバスとの連携策、自動改札の導入などの具体的な提案にとどまり、21年度も連携するコミュニティバスの利用促進の活動は実施しましたが、「サンタ電車」を走らせることができませんでした。22年度は実施したいと思っています。

今後の計画

来年度こそは、学生と地域住民に受け継がれている「サンタ電車」を改めて走らせたいと思います。

担当部門 : 総合政策学部

担当教員名 : 岩崎 恭典

2-18 コミュニティ論(総合政策学部 専門教育)

活動の目的と経緯

一般に町内会・自治会といわれる地縁団体について学ぶ科目です。日本全国津々浦々にありますが、その活動は多岐にわたるため、具体的な活動を体験することが必須であり、現場重視の科目です。

活動内容と実績

この講義では、地縁団体の歴史と、現在、地域運営組織が必要となっているという時代背景を座学で学んだのち、例年、活動の現場へと出かけます。2012～13年度は志摩市渡鹿野島、14～15年度は鳥羽市、16年度は、地元八郷西町会の会長のお話と空家対策としてのシェアハウスの可能性を検討しました。17年度から19年度は、地元の秋祭りにチヂミの屋台と大学紹介のブースを出店し、地元の方々と触れ合うことを通じて、地縁団体の存在意義について、身をもって学んでもらったところですが、20年度以降はコロナ禍のため、県内各地のまちづくり協議会の議論の傍聴で終わってしまいました。

今後の計画

大学も地元自治会の会員として、来年度こそ、教材として地元を活用させていただくつもりです。

担当部門 : 総合政策学部

担当教員名 : 岩崎 恭典

2-19 地方議会論(総合政策学部 専門教育)

活動の目的と経緯

三重県は県議会や四日市市議会など、議会改革では日本のトップランナーです。現場で活躍する議員等から直接学ぶ機会も設け、地方議会の重要性を学ぶため、地域への公開授業として開講してきました。

活動内容と実績

令和3年度は担当者の関係で不開講となりました。

今後の計画

令和5年度からの新カリキュラムにおいて、地方議会について実践的に学べる新たな科目を設置する予定です。

担当部門 : 総合政策学部 担当教員名 : 未定

2-20 NPO論(総合政策学部 専門教育)

活動の目的と経緯

社会を構成している3つのセクター(政府、企業、市民)のうち、市民セクターの今日的な役割と意義について、四日市市を中心とする具体的な事例に基づいて、深く理解する講義を行います。

活動内容と実績

地域の事例を交えながら、NPOの基本や課題の所在、NPOの新しい方向性などを具体的に理解できるよう努めています。令和3年度は、恒例の公益財団法人ささえあいのまち創造基金の「ささえあい基金」公開プレゼンテーションをオンラインで実施しました。コミュニティづくり、子ども・若者支援、障害者支援、環境保護など、四日市市を中心に活動する多彩なNPOのプレゼンテーションを、オンラインではありますが実際に聴く機会を持つことによって、地域のNPOの状況について、学生の理解が進むよう配慮しました。

今後の計画

より充実した内容になるよう、毎年の経験を基に、修正を重ねていきます。

担当部門 : 総合政策学部 担当教員名 : 松井真理子

2-21 起業論(総合政策学部 専門教育)

活動の目的と経緯

起業論は、起業家精神（アントレプレナーシップ）を学ぶ目的で、総合政策学部の専門科目として開講しています。

活動内容と実績

協創ラボとして株式会社三十三総研と連携しています。

株式会社三十三総研が実施するビジネスプランコンテストを活用し、より実践的な起業家精神の育成を図っています。具体的には株式会社三十三総研に①ビジネスプランコンテスト応募の事例紹介②財務指標とビジネスプラン作成にあたる留意事項について、講師として教授いただいています。

一方で教員側は、学生に馴染みのある企業や学生が取り組みやすいソーシャルビジネスなどを事例として、事業計画のフレームと立案に必要な分析手法を教授しています。

今後の計画

毎年、やり方を改良しながらビジネスプランコンテストの学生部門への応募を目指しています。

担当部門 : 総合政策学部 担当教員名 : 岡 良浩

2-22 四日市公害論(環境情報学部 専門教育)

活動の目的と経緯

環境情報学部では、四日市公害に関する基礎的な知識を身に付け、その教訓を学んだ上で、様々な環境問題に対処するように指導しています。そのため、本講義は学部必修科目となっています。被害者、市民、行政、企業側という複数の視点から四日市公害を見るとともに、明治初期からの公害史や環境法成立の歴史という観点での理解も求めます。

活動内容と実績

令和3年度は新型コロナの感染拡大が続いていたため、四日市公害と環境未来館でのフィールドワークは取り止め、動画で館の様子や資料を学ぶバーチャルフィールドワークで対応しました。15回の講義内容は次の通りです。①ガイダンス、①～③海外の公害、戦前の鉱害と公害、4 大公害、④行政から見た四日市公害、⑤技術的側面から見た四日市公害、⑥バーチャルフィールドワークに関するガイダンス、⑦～⑩バーチャルフィールドワーク、⑪～⑭日本や世界の環境問題・公害に関する学生発表とディスカッション（コロナのためにチャットを利用）、⑮講義のまとめと期末試験の範囲の説明。

今後の計画

学生たちが興味を持って学べるように、授業内容に工夫を加えてゆきます。

担当部門 : 環境情報学部 担当教員名 : 千葉 賢

2-23 地域環境論(環境情報学部 専門教育)

活動の目的と経緯

環境関連の諸分野で活躍している方を講師として招聘し、環境問題の現実と経験をお話いただき、教科書や通常講義では知ることが難しい事柄を学生に学ばせることを目的としています。

活動内容と実績

令和3年度の15回の講義の内容は次の通りです。①ガイダンス、北勢地域の環境問題、②三重県の廃棄物対策、③四日市市のゴミ処理とリサイクル、④伊勢湾のプラスチックゴミ問題、⑤SDGsとエネ研の取り組み、⑥SDGsが描いている社会、⑦再生可能エネルギーの展望、⑧LCAによる環境問題の定量化、⑨北勢地域の野生動物と外来種問題、⑩三重県の林業と今後、⑪農業における環境への影響・多面的機能と可能な地域コミュニティ、⑫環境配慮型の農業資材と栽培技術、⑬持続可能な消費でSDGs～地域資源循環を目指して、⑭伊勢湾のノリ養殖と貧栄養問題、⑮豊穰の伊勢湾を取り戻すために

今後の計画

内容の濃い講義を行って参ります。公開授業ですので、学外の皆様も是非ご参加ください。

担当部門 : 環境情報学部 担当教員名 : 千葉 賢

2-24 環境研修 b(環境情報学部 専門教育)

活動の目的と経緯

中京圏の経済は発展しましたが、伊勢湾の環境は悪化し、諸規制にも関わらず豊穰な海は戻って来ていません。本講義では海洋調査法の基礎と、実習を通じて伊勢湾の環境問題の現状を学びます。

活動内容と実績

三重大学の勢水丸をお借りして、伊勢湾内外に出で行う授業です。2009年に開始してから13年目を迎えました。2020年度は新型コロナのために本講義も実施できませんでしたが、2021年度は乗船人数を6名に絞り、8月6日と7日、及び、8月30日と31日の2回に分けて実習を行い、合計で12名の学生を参加させることが出来ました。講義の内容としては、事前授業で海洋科学の基礎を学び、実習では勢水丸の機器を使って水質や底質、生物調査などを行います。船内の掃除、配膳、食器洗いなども学生の仕事で、皆で協力して作業を進めます。事後授業に参加してレポートを提出すると単位を取得できます。本地域の持続可能性を考える上で、伊勢湾の役割や環境問題を知ることは大切で、本講義はその役割を果たしています。

今後の計画

実習を継続するとともに、取得データを分析し、伊勢湾の環境改善に役立てます。

担当部門 : 環境情報学部 担当教員名 : 千葉 賢

2-25 土壌学(環境情報学部 専門教育)

活動の目的と経緯

それぞれの地域の固有財産であるだけでなく人類の共有財産である土壌について、地域の環境問題を学ぶ環境情報学部の学生に考えてもらうために実施しています。

活動内容と実績

土壌は世界中のいろいろな場所にある人類共通の財産です。土壌はそれぞれの土地や風土に密着しており、その土地の農業や食文化にも結び付いた極めて地域性の高い財産です。この土壌学では、環境情報学部の自然環境分野 3 年次生を対象に、15 回の講義のうち 1 回をあて、三重県や北勢地域にある土壌の特徴や性質、分布状況などについて、実際の写真を交えて紹介する内容を盛り込んでいます。

今後の計画

次年度は単なる土壌の紹介にとどめず、各地の文化や産業との関連性も紹介する予定です。

担当部門 : 環境情報学部 担当教員名 : 廣住豊一

3-1 総合政策学部の高大連携授業～北星高校の1年生ゼミへの参加

活動の目的と経緯

総合政策学部の「入門演習Ⅰ・Ⅱ」では、北星高校生の参加を受け入れています。2019年度からは、四日市大学と北星高校との間に締結された高大連携提携書にもとづいて実施しています。

活動内容と実績

北星高校との連携は、同校が四日市北高校であった時代から始まっています。当初は本学のゼミ活動に参加する形が中心でしたが、2005年度以降は1年生のゼミに参加し、高校の単位修得とする現在の形式になりました。北星高校の授業は生徒の選択制になっており、毎年必ず数名が参加してくれていましたが、2021年度には残念ながら希望者がいませんでした。しかし、来年度以降につなげていくことを予定しています。

今後の計画

北星高校の学校評価委員長も本学の教員が長年務めてきており、多面的な高大連携が期待されます。

担当部門 : 総合政策学部 **担当教員名** : 三田泰雅

3-2 環境情報学部の高大連携授業

活動の目的と経緯

高大連携授業は、大学教員が行う専門分野の出前講義などを通じ、高校生の社会への関心を深めたり、大学で学ぶ専門分野への興味を促したりすることを目的としています。環境情報学部では、自然環境、メディア情報の各分野に関する高大連携授業を実施しています。

活動内容と実績

コロナのため、多くの高大連携授業が中止になりました。2021 年度に環境情報学部単独で実施したものは、以下の通りです。

*愛知県立海翔高等学校 7月6日 10:50~12:40 (2コマ)

「プランクトンの採集と水質分析 (三又池)」派遣教員 牧田直子

今後の計画

2023 年度からは、自然環境分野、メディア情報分野と呼んでいた枠組みが、環境科学専攻とメディア情報専攻にかわります。今後は、新しい時代のコンテンツについても、高大連携授業を通じて高校生に伝えていこうと考えています。

担当部門 : 総合政策学部・環境情報学部 担当教員名 : 鬼頭・前川・関根

3-3 2 学部共同の高大連携授業

活動の目的と経緯

四日市大学では本学と高校の相互理解を深めるために、様々なレベルで高校と連携（あるいは協力）した活動（事業）を実施しています。この中で、2 学部が共同して高大連携を掲げ、高校との高大連携事業として取り組んでいるものをご紹介します。

活動内容と実績

○暁高等学校

◇1 年生を対象に進学意識の高揚と進路選択に資することを目的とし、授業体験会を実施しました(3 月 10 日)。高校生約 40 名が本学に来学し 5 つのテーマから 1 つもしくは 2 つの模擬授業を約 2 時間受講しました。事前に各テーマから課題が与えられその課題に取り組むことで、当日の授業内容の理解が深まり、探求に対する意識も高まりました。

NO	テーマ	担当教員
1	世界に進出している企業について考えてみよう	鶴田 利恵 教授
2	人口減少時代の地域の持続可能性を考えてみよう	小林慶太郎 教授
3	プリンセスからジェンダーを考えてみよう	三田 泰雅 教授
4	これから迎える新しい社会とメディア情報テクノロジー	前川 督雄 教授
5	哺乳類の世界を探る身近な動物を見つけてみよう	野呂 達哉 准教授

○桑名北高等学校

◇5 月 26 日、2 年生約 90 名を対象に「大学・進学セミナー」を実施しました。担当した入試広報室 佐藤より高校と大学との学びの違い、キャンパスライフの紹介、卒業後の進路などが紹介され、進学への意識が高まりました。

○北星高等学校

◇昨年に引き続き、コロナの影響により連携事業を自粛しました。

○いなべ総合学園高等学校

◇2 月 9 日、学内アドミッションセンターと高校をリモート中継し、1 年生約 280 名に対して「防災講話」を実施しました。講師の鬼頭副学長より本学学生の被災地支援、震災当時のインタビュー映像、高校生との質疑応答などを行いました。参加した高校生は、災害を身近に感じ、防災対策の重要性を再確認しました。

今後の計画

今後の取り組みとしては、with コロナを見据えた連携事業の取り組みを検討し、オンライン上での教育・研究のマッチング、高校側のニーズにあったプログラムを提供し、信頼関係を構築したいと考えています。今後も連携校からの入学者確保の視点で入試広報室が担当部署として継続していきます。

担当部門 : 入試広報室

連絡先 : 入試広報室次長 佐藤信行 電話 059-365-6711 メール : sato@yokkaichi-u.ac.jp

3-4 東日本大震災支援活動と学校間連携

活動の目的と経緯

四日市東日本大震災支援の会(以下、支援の会)は、被災地の復興・復旧のために、四日市大学の学生・教職員が中心となって2011年4月に設立し、2011年5月から一般市民とともに災害支援活動を行いました。2012年3月からは、四日市看護医療大学、桑名北高校、四日市四郷高校、暁中学高等学校などと連携し、各学校のバックアップのもと、支援活動を行ってきました。当初の目的は、大規模災害を受けた被災地の復旧・復興支援と心のケアにありましたが、被災地での活動経験や見聞きしたことを地域防災に活かす活動も行っています。予想される南海トラフ巨大地震においては、三重県において復旧・復興がスムーズに進むためには、多くの若者が被災地でボランティア活動をした経験が生きてきます。学校間で連携することも、災害に強いまちづくりにつながります。さらには、遠く被災地の若者と交流することも大切なことです。また、支援の会では、2015年度より、三重県教委と連携した「学校防災ボランティア事業」を実施し、三重県内の高校・中学に呼びかけを行い、被災地での支援活動を通して三重の地域防災に貢献する人材育成に協力しています。

活動内容と実績

支援の会では、2019年度末までに、延べ74回2,392人が活動をしましたが、2019年12月の第74回を最後に、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、活動が制限されています。また、学校間連携も全くできませんでした。三重県教委と連携した「学校防災ボランティア事業」も中止となりました。2020年度も、水害が多発しましたが、ほとんどの災害ボランティアセンターが、ボランティアの受け入れを県内などに制限していました。結果的に、2020年度は、10月に宮城県東松島市で畑作業の手伝いをするボランティア活動を実施した第75回のみということになりました。2021年度は、全く活動ができませんでした。

また、地域防災への貢献活動としては、2021年度は、四日市大学で防災士養成講座を開講しましたが、支援の会のメンバーは普通救命講習で指導にあたるだけでした。講座は、四日市市危機管理室、四日市市社会福祉協議会、四日市市消防団、自衛隊など、防災に関わっている行政・市民の方にも講師になっていただきました。例年は、三重県内の高校生・大学生・一般社会人も参加しますが、2021年度は学生と一部の関係者のみ受講しました。

今後の計画

2022年度からは、ウィズコロナで、できるだけ多くの活動を行いたいと考えています。学校間で連携し、被災地支援と三重の地域防災への貢献をしていきます。

担当部門 : 四日市東日本大震災支援の会

連絡先 : 総合政策学部教授 鬼頭浩文 電話 : 059-340-1902 メール : kito@yokkaichi-u.ac.jp

4-1 留学生による地域社会との交流

活動の目的と経緯

留学生支援センター(留学生支援委員会、留学生支援課)は、留学生が主体的に地域社会と交流するための機会として、学内外での行事の実施や参加を企画してきました。特に、「四日市大学留学生日本語弁論大会」は地域の皆さんと交流する機会が持てる催しです。過去には、「留学生弁論大会」で優秀な成績を収めた者の中から、全国大会での受賞者が出たり、弁論原稿が日本語の教科書に採用されたりしています。近年、地域社会においても異文化理解や国際交流での留学生への期待がより一層大きくなっており、留学生支援センターでは、そうした地域社会からの要請にも、可能な範囲で対応しています。

活動内容と実績

第18回目となる「四日市大学留学生日本語弁論大会」を四日市市、四日市北ロータリークラブ、国際ソロプチミスト三重 - 北から後援を頂き、予選を12月2日に実施し、7名が本選に出場しました。本選は、鈴鹿大学から1名の出場者を招き、12月25日に開催しました。この大会は司会やスタッフも留学生が務め、進行のすべてを担当。大会出場者、運営担当者は何度も練習を重ねて、この日に臨みました。会場となった311教室には、四日市市など周辺自治体関係者や地域の方々、日本語授業担当の先生、教職員など学内外の多数の方々にご参加頂きました。

また、桑名市教育委員会国際教室では、カンボジアの文化紹介を行いました。例年実施している木曾岬小学校での文化紹介、暁高校文化祭でのブース出展、いなべ総合学園高等学校での「食と文化」の授業講師、四日市徹夜おどりへの参加などは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で見送られました。

しかしながら、これまでの取り組みが高く評価され、一般財団法人日本語教育振興協会から、全国の日本語学校教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先として、令和3年「日本留学 AWARDS」私立大学文科系部門に上位入賞を果たしました。この賞には、平成25年から8回上位入賞し、そのうち平成27年、28年、29年には、大賞を受賞しています。

今後の計画

令和4年度については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑みながら、これまでの活動を継続し、地域社会との連携や学内における日本人学生との交流活動について積極的に実施する計画です。



留学生日本語弁論大会



留学 AWARDS 表彰式

担当部門 : 留学生支援課

連絡先 : 電話 059-365-6793 メール : issc@yokkaichi-u.ac.jp

4-2 一般社団法人四日市とんてき協会

活動の目的と経緯

四日市に来たことがない人たちにとっては、四日市と言うと、依然として公害の街という印象が強いようです。しかし、実際の四日市は、そのイメージに反して、とても暮らしやすい街です。

このギャップの解消、すなわち四日市に対するイメージの改善こそが、実は、四日市で地域おこしを進めていく上での、最大の課題なのではないでしょうか。いくら暮らしやすい魅力あふれる街であっても、それが知られていなければ、そこに引っ越して来る人も遊びに来る人もいないでしょうし、負のイメージでしか見てもらえないということが続けば、そこに住んでいる人たちまでもが、自らの街に対する愛着や自信・誇りを、失ってしまいかねません。

そこで辿り着いたツールが、ご当地グルメ「とんてき」です。昔から愛され食べ続けられてきた「とんてき」に四日市の地名を冠して発信していくことで、四日市に対するイメージを改善し、四日市に暮らす人々の街への愛着や自信・誇りを取り戻していこう、「四日市とんてき」をツールとして活用することで地域おこしを進めていこうと考え、平成20年に総合政策学部の小林を代表として、四日市とんてき協会を設立しました。

活動内容と実績

活動の目標は、「とんてき」の販売促進ではありません。「四日市とんてき」というツールを使って、四日市という街の魅力を発信することです。平成20年春以来ほぼ毎年発行してきた「四日市とんてきマップ」を現在はネットで配信しているほか、「四日市とんてき」を通じて四日市を売り込める公認ソースを始めとする様々な商品の開発を監修したり、ご当地グルメでまちおこしの祭典「B-1グランプリ」への出展(平成22年度から)をはじめとした各地のイベントへの出展を通じて四日市のPRに努めたりしています。

令和3年度は、前年度に続いて新型コロナウイルスの感染拡大の影響でイベント等は軒並み中止になってしまいましたが、テレビやラジオなどのメディアに出演しての四日市のPRなどを、引き続き進めてきました。また、対外発信だけでなく四日市の魅力を発掘することで、市民のまちへの愛着や自信・誇りを高めていこうと「四日市まちづくりカフェ」という取組みも平成26年度から始め、隔月で開催しています。



出演したNHKの番組

「ロコだけが知っている」の一場面

今後の計画

引き続き市内各団体などとも協働しながら、積極的に四日市のまちの魅力の発信に努めて参ります。

担当部門 : 一般社団法人四日市とんてき協会 (代表理事: 小林慶太郎 総合政策学部教授)

連絡先 : 四日市とんてき協会事務局 メール: tonteki@tonteki.com

5-1 地パト（四日市大学地域パトロール部）

活動の目的と経緯

各学部に割り当てられた未来経営戦略推進経費を活用して、総合政策学部では、平成 22 年度より、学生による大学活性化企画を公募し、審査の上でその企画の実施経費を補助するという事業を行いました。この初年度の企画として、学生から自発的に応募があったのが、四日市大学地域パトロール(通称：地パト)です。学部からの補助は、蛍光色のユニフォームや、ごみ収集袋などの費用に充てられました。当初は 2 名の学生だけでのスタートでしたが、防犯や清掃美化、そして地域住民との交流などを目的に活動し、今日まで継続的に活動しており、社会からの評価も高まってきています。当初からパトロールをしてきたあさけが丘だけではなく、平成 29 年からは、新たに大矢知地区でもパトロールを始めました。



活動内容と実績

月に 3～4 回、大学の授業が終わった後に、揃いのユニフォームを着て、地域の方へ声掛けを行い、拍子木を叩きながら巡回しています。また、巡回の際にはゴミ拾いも行い、地域の美化活動にも取り組んでいます。

令和 3 年度は、四日市北警察署との意見交換やマックスバリュース山城店での「全国地域安全運動」の広報なども行い、令和 3 年 12 月には、長年の地域での活動に対して四日市北警察署から感謝状を贈呈いただきました。高等教育コンソーシアムみえが主催する「みえまちキャンパス」では活動報告を行い、優秀賞を受賞しました。

活動の様子は、これまでもたびたび各種メディアに取り上げられてきましたが、令和 3 年度も名古屋テレビなどに取材いただきました。

今後の計画

地域の安全は本来、地域の住民が主体となって担うものであり、地パトの活動は、あくまでもそうした地域の意識を涵養するための触媒と言えます。そうした地パトの活動の意義は、これまで高く評価されてきたところですが、残念ながらその一方で学内では、活動を引き継いでいく 1・2 年生の不足に苦しんでいるという実情もあります。

新型コロナ禍もあり、令和 4 年度以降に部員の勧誘・確保が出来るのかは不透明な状況です。しかしながら、現在の部員は少人数ではありますが、あさけが丘の市営住宅に入居した学生の参加もあり、引き続き、地域の方たちのために、地道に活動を続けていく予定です。

担当部門 : 総合政策学部 教授 小林慶太郎 (地域パトロール部 顧問)

連絡先 : 電話 : 059-365-6599 (教学課) メール : keitaro@yokkaichi-u.ac.jp

5-2 四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」

活動の目的と経緯

選挙というと、毎回、若者の投票率が低いことが問題となります。こうした状況を打破しようと、四日市市選挙管理委員会と連携して総合政策学部的小林が呼びかけたことを受けて、学生たちが自分たちの世代（若者世代）の投票率の向上を目指して始めた活動が「ツナガリ」です。平成22年12月16日に、経済学部3名、環境情報学部1名、総合政策学部4名の計8名でスタートしました。グループ名の「ツナガリ」には、若者と選挙のツナガリ、選挙で選ばれる代表とのツナガリ、次の世代・未来へのツナガリなどの思いが込められています。

活動内容と実績

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、9月に実施された県知事選挙に向けては、街頭での啓発なども行うことができず、なかなか満足な活動ができませんでした。しかし、10月に実施された衆議院議員選挙に向けては、大学祭の際に投票を呼び掛けるポスターやこれまでの活動内容を展示するなどして、啓発を実施することができました。

また、四日市市選挙管理委員会と協力して、若者の利用の多いSNSで選挙や投票に関する情報を発信しようと、フェイスブックページの運用も行っています。

こうした学生の活動は、選挙事務関係者や議会関係者、マスコミなど、多くの方からも注目・評価いただいています。



選挙管理委員会事務局との打合せ風景



大学祭での展示風景

今後の計画

令和4年度は、7月に予定されている参議院議員選挙をはじめとする各種選挙に向けて、若者の投票率を上げるための活動を、引き続き行っていく予定です。

担当部門 : 総合政策学部 教授 小林慶太郎（四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」顧問）

連絡先 : 電話 : 059-365-6599 (教学課) メール : keitaro@yokkaichi-u.ac.jp

電話 : 059-354-8269 (四日市市選挙管理委員会事務局)

5-3 わかもの学会

活動の目的と経緯

「わかもの学会」は、文部科学省からの補助金事業「地(知)の拠点整備事業(COC 事業)(平成 26 年度-平成 30 年度)」の一環として開始した、地域の「わかもの」たちによる地域活動や研究の報告会です。学生が地域と交流して、経験値を高めることに加え、取組の内容が地域の活力になることを目指しています。また「学会」という名称は、単なる活動報告に留まるのではなく、大学ならではの学術的な内容を地域に発信することをねらったものです。補助金が終了した令和元年度からは、四日市大学学会との共催事業「わかもの学会大会」として継続することとなりました。各学部から選出された本学学生たちが、卒業論文や研究活動等について地域に報告します。

活動内容と実績

令和 4 年 2 月 6 日、四日市大学において「第 8 回四日市大学わかもの学会大会」を開催しました。コロナ禍で、一般の方の入場制限を行ったなかでの実施となりました。

今大会は、各学部で選抜された学生 5 組が日頃の研究や制作、活動について発表しました。発表学生の持ち時間は、指導教員による学生紹介、発表、質疑で構成され、各組 20 分、地道な努力の成果である発表、どの学生も会場から温かい拍手をいただきました。

来場者からは「興味深く聞くことができました」、「熱心に取り組んでいることに感心しました」との感想をいただきました。学生には、この「わかもの学会大会」発表を機にさらなる成長を期待しています。

今後の計画

令和 4 年度も、引き続き、四日市大学学会との共催で「わかもの学会大会」を実施する予定です。

「第 8 回四日市大学わかもの学会大会」発表者と結果 (発表順)

奨励賞	テーマ	無形資産情報の会計報告
	総合政策学部	ディン ヴァン フー
	指導教員	奥原貴士
優秀賞	テーマ	比較的軽度な障害者の就労のあり方に関する研究～一般雇用と障害者雇用の比較を通じて～
	総合政策学部	鈴木 恵
	指導教員	松井真理子
最優秀賞	テーマ	吉崎海岸のマイクロプラスチック分布推移と徐放性肥料樹脂被覆の種類調査
	環境情報学部	高木 麻衣
	指導教員	千葉 賢
会場特別賞	テーマ	ペットボトル削減に向けた課題への提案
	総合政策学部	クッチ チュンリー・藤井 海斗・村田 伊織
	指導教員	松井真理子
奨励賞	テーマ	ペットボトル削減に向けた課題への提案
	総合政策学部	クッチ チュンリー・藤井 海斗・村田 伊織
	指導教員	松井真理子
優秀賞	テーマ	影絵風ストップモーションアニメ 四日市御伽草子 大入道
	環境情報学部	北 昇真
	指導教員	木村 眞知子

担当部門 : 教学課

連絡先 : 電話 059-365-6599 メール : kyomu@yokkaichi-u.ac.jp

6-1 みえアカデミックセミナー

活動の目的と経緯

「みえアカデミックセミナー」は、県下生涯学習の進展を目指した県民の方のための公開講座で、県内の高等教育機関 16 校すべてが参加していることが大きな特徴です。1996 年度に「三重 6 大学公開講座」として本学を含む 6 大学で開始し、2003 年度から各機関が講座を担当する形式となって現在に続いています。主催は三重県生涯学習センターですが、各高等教育機関が講師を担当する「公開セミナー」はそれぞれの機関の教育の特長が生かされ、全国的にもユニークな事業です。本学はセミナー開始時から現在まで、一度も欠かさず講義を実施してきました。

セミナーは「オープニング講座」（令和 2 年度は中止）「公開セミナー」「移動講座」の 3 つで構成され、同時開催の「アカデミック展」では各参加校の状況をパネル等で紹介しています。同時に本学のパンフレットや四日市大学紀要等を設置し、多くの方にお持ち帰りいただいています。

活動内容と実績



講演中の小泉准教授

2021 年度の四日市大学「公開セミナー」は 8 月 9 日に『転倒予防のための身体運動』というタイトルで、小泉大亮総合政策学部特任准教授が講師を務め、転倒予防を目指したバランス運動の理論を紹介し、研究実践で効果が確認されたバランス運動を会場の皆さんと実践してみるという講演内容でした。

当日は事前申し込みされた 66 名の方にご参加いただき、熱心に受講をいただきました。講演は大変好評で、参加いただいた皆様からは、「転倒予防に関する内容はとっても参考になりました。実技を入れた運動はとっても良かったです。どうも有難うございました」といった感想をたくさんいただきました。講演の最後に、バランス運動は転倒予防につながることは確かであるが、転倒に関連する要因はさまざま、バランス運動だけでは防ぐことができないことを理解して、各々の生活に活かしてほしいと説明がありました。

今後の計画

2022 年度の講座は次のとおりです。

- 日 程：2022 年 8 月 9 日（火）13 時 30 分開講
- 場 所：三重県文化会館 レセプションルーム
- テーマ：「失われゆく夜について考える」
－人工照明によってもたらされる環境問題
- 講 師：黒田淳哉（環境情報学部 特任助教）

担当部門：社会連携センター

連絡先：電話 059-340-1927 メール：renkei@yokkaichi-u.ac.jp

6-2 四日市大学公開講座

活動の目的と経緯

リカレント教育は、近年、ますます重要度と注目度を増しています。大学における研究成果を広く公開し、地域の皆様の生涯学習を推進することを目的として、本学では開学2年目の1989年から公開講座を開始し、毎年度、その時代のニーズに合わせて様々な形式で開講しています。講師は原則として本学専任教員が務め、本学教員の専門知識を生かした内容です。一般の方を対象に開講するものですので平易な説明を心掛け、本学の教育研究内容を広く提供することで幅広い知識や視野を身につけていただくことを目指します。

2014年度に採択された文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」を機に、同年度より2018年度までの5年間はCOC事業の一環としての公開講座も併せて、年2回の公開講座を実施してきました。2019年度よりこれを1回に集約し、より充実した内容で、地域コミュニティにお届けしています。

活動内容と実績

2021年度の講座は7月10日(日)18:30より、四日市市立博物館プラネタリウムで公開講座を開催しました。プラネタリウム主催の宇宙塾との合同の企画として実施しました。講師は環境情報学部の黒田淳哉助教で、講座タイトルは「失われゆく夜について考える」でした。

新型コロナの感染予防の関係で、定員を70名に絞りましたが、満席となり、年配の方々からお子様まで、幅広い年齢層の方々にご参加いただきました。講座は非常に工夫が施されたもので、プラネタリウムの機能を生かして、光害(ひかりがい)の有無で四日市の星の見え方がどう変わるかなどを体験、生態系への影響、天体観測への影響などや、国の考え方(環境省のガイドライン)を説明した後に、自分の地域の光害の程度を知る方法や、実際に黒田研究室で進めてきた四日市市内の測定結果の説明などがありました。最後に、照明の専門家として、光害を軽減するための光源対策への提案もあり、盛りだくさんの内容で、大変多くの参加者から、講座はとても良かったとの感想を頂きました。

案内チラシ



今後の計画

今後も公開講座の実施を予定しています。地域の方の生涯教育をお手伝いする手段のひとつとして、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

担当部門 : 社会連携センター

連絡先 : 電話 059-340-1927 メール : renkei@yokkaichi-u.ac.jp

6-3 四日市市民大学 一般クラス

活動の目的と経緯

四日市市は、毎年市民向けに「四日市市民大学」を開講しています。例年、5コース程度が開催され、そのうちの1コースを本学が担当して、企画・運営に当たります。2021年度は「秋の夜長に本を読む」といったテーマで開講しました。四日市大学に設置する2つの学部(「総合政策学部」と「環境情報学部」)の専門性の紹介も兼ね、各学部のカリキュラムの専門知識と関連する本の中から、一般の方が読みやすい本を課題本として講義を行いました。

活動内容と実績

※曜日はすべて金曜日 ※時間はすべて18:30~20:00

回次・日程	分野・講師・課題本
第1回 10月1日	総合政策学部「国際・経営分野」・総合政策学部長・教授 鶴田利恵 『人間の経済』宇沢弘文(著) 新潮新書(2017)
第2回 10月15日	総合政策学部「スポーツ・人間分野」・総合政策学部准教授 高田晴美 『樋口一葉小説集』樋口一葉(著)、菅聡子(編集) ちくま文庫(2005年)
第3回 10月22日	総合政策学部「地域・まちづくり分野」・学長・総合政策学部教授 岩崎 恭典 『日本の地方政府 1700自治体の実態と課題』曾我謙悟(著) 中公新書(2019年)
第4回 10月29日	環境情報学部「自然環境分野」・環境情報学部長・教授 千葉賢 『里海資本論 日本社会は「共生の原理」で動く』井上恭介(著) 角川新書(2015年)
第5回 11月12日	環境情報学部「メディア情報分野」・環境情報学部特任教授 武藤和成 ①『100分で名著 「幸せ」について考えてみよう』、②『信長はなぜ葬られたのか 世界史の中の本能寺の変』

コロナ禍の中、緊急事態宣言が9月30日までに延長されて、四日市市民大学講座の初回講座が日程変更をすることとなり、受講生の皆様には大変ご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。大変熱心な受講生(25名)の方々と大変有意義な時間が過ごせました。次年度も是非同様の企画を提供して欲しいといった声も頂戴しています。

今後の計画

今後も、四日市大学のもつ資産を活用し、魅力のある講座を提案したいと考えています。

担当部門 : 社会連携センター

連絡先 : 電話 059-340-1927 メール : renkei@yokkaichi-u.ac.jp

6-4 履修証明プログラム

活動の目的と経緯

四日市大学では、広く社会人の皆様に大学教育を開放し、教養・スキルの向上、また生きがいの創出などに貢献しています。平成 21 年度から導入した「履修証明プログラム」は、大学の正規授業や公開講座などを組み合わせて、地域の方々が体系的な知識・技術等を習得できる教育プログラムです。どのプログラムも週に 1～2 日の通学で、1～2 年で修了が可能です。本プログラムを修了した方には大学から、学校教育法の規定に基づくプログラムであることを示した履修証明書(単位や学位を証明するものではありません)が交付されます。

活動内容と実績

令和 3 年度は以下の 7 コースを開設しました。

四日市学プログラム
地域リーダー養成プログラム
社会調査の基礎修得プログラム
統計データ分析入門プログラム
I T 入門プログラム
SDG s のための環境保全学習プログラム
政策・戦略企画力養成プログラム (B P) ※

令和 3 年度の修了者はありませんでしたが、平成 29 年度には、1 名が、「地域リーダー養成プログラム」を修了され、履修証明書を交付しました。当該受講者は、「地方自治論」、「NPO 論」、「コミュニティ論」、「人権論」、「地方議会論」などの講義で、地方自治の現状と課題を学ぶ一方、「地域防災」や「コミュニティ論」といった現地実習を含む講義では、若い学生に交じって活動され、「防災士」の資格も取得されました。

※令和 2 年度より、社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的な課程を「職業実践力育成プログラム」(B P)として開講。(文部科学大臣認定(令和元年度認定))

令和 3 年度は、コロナ禍で中止としました。

今後の計画

履修証明プログラムは、研究資源を活かし一定の教育計画の下に編成された体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラムです。目的・内容に応じ総時間数 60 時間以上で設定されるようになりました。このプログラムの修了者には、学校教育法に基づく履修証明書を交付します。詳しくは、大学のホームページ：<https://www.yokkaichi-u.ac.jp/yokkaichi-info/extention-subject> をご覧ください。

担当部門： 教学課

連絡先： 電話 059-365-6599 メール：kyomu@yokkaichi-u.ac.jp

6-5 政策・戦略企画力養成プログラム (BP)

活動の目的と経緯

このプログラムは、地域の未来を創造する企画力を養成することを目的として開設しました。講義は、ワークショップや企業見学等、受講生と講師との双方向コミュニケーションを多く含む、実践的な内容です。受講生は、自治体職員、議員、NPO等の地域リーダー等地域づくりに関わる方、企業等で企画業務に携わる方等を対象としています。社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムとして、文部科学省の「職業実践力育成プログラム」にも認定されています。

活動内容と実績

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の動向に鑑みて、不開講となりました。本プログラムの開講を楽しみにお待ちしております皆様には、誠に申し訳ございませんでした。

令和2年度は23名の受講者があり、8月から1月までの13日間にわたり、座学やワークショップ、見学など「理論と実践」で学ぶ授業形態で、講師陣は大学教員や実務家が担当。講義内容は、SDGsや政策の発信の手法、地場産業の現場見学や課題のヒアリングなどを学びました。また、最終回には受講者による「政策提言発表会」(一般公開)を実施。各自がテーマを持って調査・研究を行った成果を発表されていました。

参加された方々は、自治体の議員や職員、NPO、地域団体や地域づくりに関わる人、企業の企画業務に関わる様々。地方を取り巻く状況を学び、実践的な政策形成トレーニングをし、地域課題解決の助けとなる質の高い政策・戦略企画力を養成する本プログラムを、多世代、様々な立場の人たちと学んでいりました。

このプログラムは、令和3年度より、社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的な課程を「職業実践力育成プログラム」(BP)として(文部科学大臣認定(令和元年度認定))、また、厚生労働省より「特定一般教育訓練講座」として指定を受け開講予定でした。

募集チラシ

四日市大学 政策・戦略企画力養成プログラム (BP)

受講対象：一般の方
(地方自治体職員・議員・NPOリーダー・企業の企画担当者)

ご参加いただけます。対象者：自治体職員・議員、NPOリーダー、企業の企画担当者

課題解決のための企画力強化！

受講者募集！ 出願期間 2021年7月1日(木)～8月31日(火)

特色1	大学の正式プログラム	講座期間	2021年10月～2022年2月 (1年制)
特色2	講師陣は大学教員・実務家	定員	20名(先着順)
特色3	出席しやすい週末講座	授業料等	35,340円
特色4	最終発表会は一般公開		

お問い合わせ先
四日市大学社会連携センター
〒512-8512 三重県四日市市東三丁目100番地
TEL 059-340-1927
Email renkei@yokkaichi-u.ac.jp

今後の計画

履修証明プログラムは、研究資源を活かし一定の教育計画の下に編成された体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラムです。目的・内容に応じ総時間数 60 時間以上で設定されるようになりました。このプログラムの修了者には、学校教育法に基づく履修証明書を交付します。詳しくは、大学のホームページ(TOP > 生涯学習 > 履修証明プログラム)をご覧ください。

担当部門：社会連携課

連絡先：電話 059-340-1927 メール：renkei@yokkaichi-u.ac.jp

6-6 社会人を受け入れる教育プログラム

活動の目的と経緯

四日市大学は正課教育に広く社会人を受け入れる方針で、社会人入学制度、科目等履修生制度、聴講生制度を定めて運用してきました。これまでに多くの社会人の皆様がこれらの制度を利用されています。

活動内容と実績

1. 社会人入学(学士号取得)

「きちんと学び直して自分を高めたい」「仕事や子育てがひと段落し、新しいことにチャレンジしたい」等のニーズに応えるため、広く社会人に対して高等教育機関で学ぶ場の提供と講義の開放などを行い、学習機会の拡充のために設けられた入試制度です。

○社会人入学のポイント

- ・「入学金」と「4年間の学費」の半額免除 ・履修や演習登録時にカリキュラムサポートを実施
- ・「総合政策学部」では5年から8年を在学期間とする「長期履修制度」を実施

○出願資格等

1. 最終学歴が高等学校卒業以上の方又は文部科学大臣の定める大学入学資格を有する方
2. 満23歳以上の方
3. 社会人経験を有する方

○選抜方法

- ・事前課題文(600字～800字)の提出、書類審査及び面接の総合判定

※詳しくは四日市大学入試広報室にお問い合わせください。TEL 059-365-6711

2. 科目等履修生

生涯学習に対するニーズに応えるため、科目等履修生の受け入れを行っています。学外の社会人などに特定の科目受講を許可するものです。一つ又は複数の科目を選択でき、単位修得が可能です。

○出願資格等

- ・大学入学資格を有する方又はこれと同等以上の学力を有すると認められる方。
- ・選考は面接(前学期、後学期の2回募集を実施)。
- ・試験に合格し単位修得の認定を受けた場合は、必要に応じて単位修得証明書を交付します。

3. 聴講生

生涯学習に対するニーズに応えるため、聴講生の受け入れを行っています。学外の社会人などに特定の科目聴講を許可するものです。但し、聴講生は科目等履修生とは異なり、単位修得はできません。

○出願資格等

- ・大学入学資格を有する方又はこれと同等以上の学力を有すると認められる方
- ・選考は面接(前学期、後学期の2回募集を実施)

今後の計画

今後も地域に貢献する大学として、学び直しや教養・スキルの深化などの生涯学習を目指す社会人の皆様に、大学教育を積極的に開放します。

担当部門 : 教学課

連絡先 : 電話 059-365-6599 メール : kyomu@yokkaichi-u.ac.jp

7-1 四日市大学研究機構 関孝和数学研究所

活動の目的と経緯

本研究所は数学、数学史、数学教育及びその周辺に関する研究・調査を推進し、大学、社会の発展に寄与することを目的として、2009年4月に発足しました。所長は上野健爾(京都大学名誉教授)、副所長は森本光生(上智大学名誉教授、元国際基督教大学学務副学長)、松本堯生(広島大学名誉教授)、小川東(本学名誉教授)の3名が務めています。現在、所長、副所長を含み20名の研究員・客員研究員が在籍しています。

活動内容と実績

A. 研究員による2021年度の科研費(代表者)は

- ・森本光生「東アジア数学史より見た建部賢弘の数学の研究」
- ・小川東「関孝和の数学の革新性に関する研究：方程式論を中心として」
- ・斎藤憲「近代以前の幾何学における図版の研究」

の3件です。

B. 数学史関係では「数学史京都セミナー」を通年にわたって開催し、アル=フワーリズミー(8世紀後半～9世紀中頃)の『ジャブルとムカーバラ』、岡之只『起術解路法』(19世紀前半?)の講読を進めました。

C. 書籍では、斎藤憲(大阪府立大学名誉教授)が編集員長となって日本学史学会編『科学史事典』(丸善出版)が刊行されました。

D. 遠隔による会議などが社会に受け入れられつつあることから、オンライン形式で「SKIM (Seki Kowa Institute of Mathematics) レクチャーズ」を開催しました。

- 第1回：6月13日(土) 13:00～14:00 但馬亨「フランス革命と数学者」
- 第2回：9月11日(土) 13:00～14:00 森田康夫「福島第一原発事故---想定外」
- 第3回：12月12日(日) 13:00～14:00 曾我昇平「イエズス会と和算」
- 第4回：3月13日(日) 13:00～14:00 小川東「建部賢弘『綴術算経』300年」

今後の計画

2022年にも引き続きオンライン形式で「SKIM (Seki Kowa Institute of Mathematics) レクチャーズ」を開催します。

- 第1回：6月11日(土) 13:00～14:00 小林龍彦「和算と算額」
- 第2回：9月11日(日) 13:00～14:00 寺尾憲二「数学切手で楽しむ」
- 第3回：12月11日(日) 13:00～14:00 鳴海風「未定」
- 第4回：3月12日(日) 13:00～14:00 森本徹「未定」

申し込みは関孝和数学研究所ホームページから誰でも申し込みます。

担当部門 : 研究機構

連絡先 : 電話 059-340-1927 メール : yuro@yokkaichi-u.ac.jp

活動の目的と経緯

人口減少社会に突入した日本は、これまで人口増加を前提に作ってきた様々な「公」の仕組みの大きな見直しを迫られています。

この見直しのためには、地域における市民参加を通じて、これまで「公」を担ってきた行政の役割を根本的に再検討するとともに、今後の人口減少社会において「公」を再構成する道筋を明らかにしつつ、「新しい時代の公」を担う首長、公務員、議会議員、各種地域団体等の役割の明示を行うことにより、なによりも、「新しい時代の公」を「担い得る」人材・組織が「育つ」ことが必要です。

公共政策研究所は、各自治体が多様な地域性を有することを前提に、各自治体が多様な地域課題の解決を通じて「新しい時代の公」を形成していく取り組みに対して、学内の人的資源を動員して支援を行い、もって「公」の一般理論化を目的として平成21年10月に設立されました。

活動内容と実績

令和3年度は、いずれも前年度より引き続き、三重県市町総合事務組合より受託した「ワンステップ研修（前期）講師派遣業務」と、碧南市（地域協働課）より受託した「碧南市市民協働推進事業」の合計2件を実施しました。

また、本研究所の研究員は、三重県や四日市市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、尾鷲市、東員町などの三重県内の自治体のみならず、知多市、岩倉市、長久手市、東近江市など、多くの県外の自治体でも、要請を受けて講演や現地指導等を行いました。これまで本研究所の研究員が各地の自治体で実施してきた事業が、相応の評価を受けているものと思われます。



本研究所の研究員による講演等の様子

今後の計画

引き続き着実に事業を受託していくとともに、講演や現地指導なども可能な限りお引き受けするなど、各自治体の政策形成に資する取組みを継続していく予定です。

担当部門 : 研究機構

連絡先 : 電話 059-340-1927 メール : yuro@yokkaichi-u.ac.jp

活動の目的と経緯

我々にとっての生物とは、単に豊かな自然の象徴というだけではなく、これからの人類存続のために守らなければならない、有望な資源の一つであると思われます。例えば、我々が毎日食べている食物は、そのすべてが生物あるいはその加工品です。最近ではバイオエネルギーも注目され、アルツハイマー病やエイズ等に有効な成分が生物から発見されています。一方、我々の身近な生物が、いつの間にかいなくなったり、絶滅危惧種だということを聞く機会が増えています。また、外来種の増加も大きな問題になっています。さらに、生物の種数の急激な減少が、陸上でも川でも海でも起きています。除草剤や農薬の使用開始年度と、その現象の年度が見事に一致しています。本当は、大変な事態が起きているのかもしれない。

四日市大学周辺には、豊かな自然が残され、多くの動植物が棲息しています。本研究所では、この地域の生物の現状を把握記録すると共に、環境保全、自然保護、バイオ資源の有効利用等に取り組みます。さらに成果を情報として発信し、教育現場に還元することで、地域への貢献を目指します。

活動内容と実績

今年度の研究所の活動は、計画されたにもかかわらず、残念ながらコロナ禍の影響を受けて、中止せざるを得なかったものが少なくありません。そのような状況下において、実施したもの、また報告書、論文としてまとめることができたのは、つぎのとおりです。

● 体験会など

- ・三重ジュニアドクター育成塾・観察実験講座
「水田でのプランクトンの採集と観察」 2021,5,22

● 調査研究

- ・多摩川上流域に侵住した大型珪藻外来種の生息状況とその対策に関する研究（田中正明・小川東）
- ・北海道声問大沼の珪藻相（小川東・田中正明）
- ・愛知県の水田から得られたオナガミジンコ属の一新種について（小鹿亨・牧田直子・田中正明）



三重ジュニアドクター育成塾の様子

今後の計画

水田およびため池のプランクトン相の把握調査、河川の外来珪藻の状況調査などを実施する予定です。

担当部門：研究機構

連絡先：電話 059-340-1927 メール：bio@yokkaichi-u.ac.jp

7-4 四日市大学研究機構 環境技術研究所

活動の目的と経緯

環境技術研究所では、地域からの依頼による大気や水質等の環境調査研究、環境シミュレーション分析、廃棄物の処理やリサイクル技術に取り組み、地域社会や環境保全への貢献を目指しています。

身近な問題としては廃棄物不法投棄による地下水汚染、干潟の消失による海岸生物の減少、北勢地方の河川や伊勢湾などの水質汚濁の進行、プラごみ問題といった状況が起こっています。

具体的な事例としては、海蔵川、十四川、鎌谷川などの河川調査、焼却灰の鉛・フッ素等含有量低減化、リンの回収率向上等の技術開発などを実施しました。また、砒素の簡易分析法の河川・井戸・ヒ素除去装置への適用をいたしました。

活動内容と実績

論文発表としては①Tatsuro Yamamoto, Katsumi Iida, Hiroshi Iida, Masaaki Takahashi and Yukimasa Takemoto : Arsenic Removal Using a Simple Oxidation Device, Open Access Journal of Waste Management & Xenobiotics, Research Article, Volume 4 Issue 1, 2021

②Yukimasa Takemoto, Masaaki Takahashi, Maki Ooyagi, Sigeaki Inagaki, Atsushi Suzuki : Water Pollution of the Jyushi-Gawa River, Proceedings of International Conference on Geotechnique, Construction Materials and Environment, GEOMATE 2021 があります。

環境技術開発での共同研究の推進（令和3年度）

- ・活水プラント(株)・・・高機能メタン発酵装置による資源化技術の開発、簡易ヒ素除去装置開発
- ・(財)三重県環境保全事業団・・・四日市市内河川の水質汚濁や発生源調査に関する共同研究などを受注し、調査・分析を行いました。

地域連携による環境調査活動の推進（令和3年度）

市内の鎌谷川（地元西山町自治会からの要望）の中流域の窒素汚染、海蔵川（県地区市民センターより依頼）上流部畜産排水汚濁、十四川（富田地区自治会等との共同調査）中流部の有機汚濁などの河川の汚濁調査を実施し、可能な事例は環境系学会報告や英文雑誌投稿等をいたしました。また、三重ジュニアドクター育成塾の観察実験講座では河川水質の分析評価という題目で小中生に実習させました。

今後の計画

上記の調査研究をより発展・深化させて、地域に貢献していきたいと考えています。市内の大矢知・平津産廃跡地のダ イキソ類汚染のその後が継続調査されていない問題があり、地元自治会と連携して事業団に調査を依頼し、周辺地域でダ イキソ類 4.3ピコグラムが出ました。市役所と県庁大気・水環境へ連絡し、継続調査を依頼しました。構成パターンでは農薬起源とのこと。

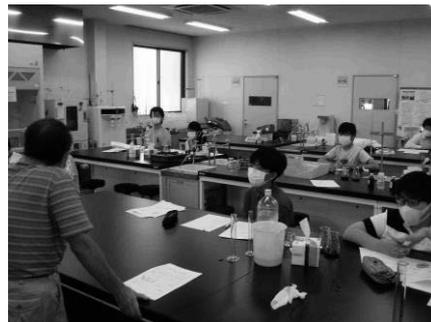
担当部門 : 研究機構・
環境技術研究所

担当教員名 : 武本行正

連絡先 : 電話 059-340-1639

メール :

takemoto@yokkaichi-u.ac.jp



活動の目的と経緯

農業はわたしたちの生活を支える基盤産業です。農業分野には、耕作放棄地の急増、里山の荒廃、獣害などの解決すべき課題も多く残されている一方で、AI や IoT などの技術の導入による新しい成長産業としての可能性も期待されています。

四日市大学研究機構地域農業研究所は、四日市大学地（知）の拠点整備事業の支援を受けて実施された 1 人 1 プロジェクトや特定プロジェクト研究などで得られた研究成果のうち、農業分野に関する内容をさらに発展させ、地域農業の振興をはかるための調査研究を行うことを目的に設立されました。



竹林間伐材を用いて製造した
土壌改良資材の散布実験

活動内容と実績

地域農業研究所では、地域の農業が抱える課題について調査し、地域と農業を振興するための方策について考えています。

昨年度、本研究所が中心となって実施する研究課題「北勢地域における森林価値再発掘と里山圏資源循環モデルの構築」が「特定プロジェクト研究」として認定されました。この研究課題では、農林業を支える豊かな森林・里山の再生を目指した研究活動を実施しています。たとえば、貴重な野生動物を活用した森林価値の再発掘を行い、森林の新しい価値を見出すとともに、里山健全度評価や獣害動物調査に加えて、竹林間伐材による里山資源の循環モデルの構築を通じて、森林・里山再生のための方策を検討することを目的としています。本年度は、この研究課題の実施にあたり、研究員を増強するなど、研究所の組織体制を強化しました。



竹粉による水田の
「土づくり」効果の調査

今後の計画

引き続き、特定プロジェクト研究として認定された「北勢地域における森林価値再発掘と里山圏資源循環モデルの構築」を軸に、農林業の振興と森林里山保全に関する調査研究を進めていきます。



トマトの栽培実験も引き続き実施

担当部門 : 四日市大学研究機構 地域農業研究所

連絡先 : 電話 059-340-1614 メール : zumi@yokkaichi-u.ac.jp

活動の目的と経緯

ロータリーは、地域社会のボランティアから成る世界的なネットワークです。

世界中の事業・専門職務のリーダーや地域社会のリーダーであるロータリーの会員は、人道的奉仕活動を行い、職業における高い道德基準を奨励し、世界中で友好と平和を築くために尽力しています。

活動内容と実績

◆四日市大学留学生への支援

学業優秀で経済的理由による修学困難な学生に対して教育支援として奨学金授与と日本語弁論発表会への後援



◆四日市大学ローターアクトクラブのスポンサークラブとして支援

2015. 7. 10 設立の四日市大学 RAC 活動への支援を行い、当クラブとの共同奉仕活動を実施

写真：【羽津山緑地垂坂公園早朝クリーンウォーキング】

早朝よりウォーキングをしながら清掃活動を実施



◆青少年交換事業の実施

国と国との関係を育み、平和な世界を築くというロータリーの世界的使命により、海外に於いて一年間の貴重な体験を通して、異文化交流、国際交流を深め、国際理解、国際親善を促進し明日の指導者である青少年を育成するための交換学生事業を実施

◆あさけプラザ図書館への児童図書寄贈

図書館開館以来 30 年以上毎年児童図書を寄贈

『四日市北ロータリークラブ文庫コーナー』を開設していただき本とふれ合い読書を楽しむ環境の整備



◆北星高校への支援

成績優秀で学習意欲のある生徒を対象に、地域社会に貢献する人材育成のため特別奨学金を授与

今後の計画

今後とも継続し、新たな活動を展開出来ればと考えています。

担当部門 : 四日市北ロータリークラブ

連絡先 : 電話 059-363-0456 メール : ynrc@vega.ocn.ne.jp

8-2 NPO法人市民社会研究所

活動の目的と経緯

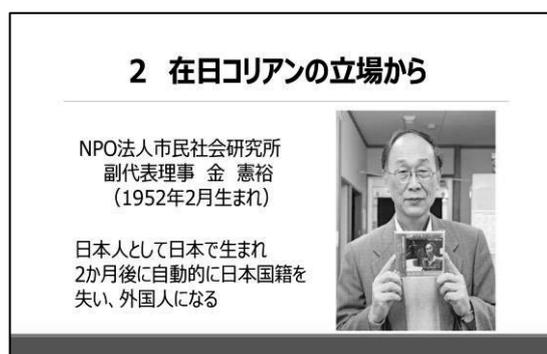
NPO 法人市民社会研究所は、2004 年 11 月に設立された NPO で、①公共社会を担う個人としての市民の成長（市民教育）、②誰にも居場所のある社会づくり（社会的包摂）、③市民活動団体の連携による力強い市民セクターの形成を目指しています。四日市大学 4 号館に本部事務局を賃借し、全体で約 20 名のスタッフのうち大学内で 1 人が働いています。四日市大学卒業生をこれまで 6 名雇用し、現在も 2 名が常勤職員として働いており、そのうち 1 名は事務局長として活躍しています。

活動内容と実績

市民社会研究所の仕事は、大別すると①～④です。NPO の活動が大学生の成長や学習の支援につながるようにしたいと考えています。

- ① 市民教育：住民の人権学習会支援、ディベート、現代社会研究会など
- ② 課題を抱える若者の就労支援：北勢地域若者サポートステーション、伊勢おやき本舗
- ③ 市民活動の支援：NPO の支援、市民活動センターの指定管理など
 - * 公益財団法人ささえあいのまち創造基金の事務局
 - * NPO 法人みえ NPO ネットワークセンターの事務局
 - * 東海市民社会ネットワークの事務局
- ④ ①～③に関する調査研究

平成 30 年度に松井ゼミ（当時 3 年生）と連携して開発した、四日市みやげの「四日市彩サブレ」は、令和 3 年度も市内のじばさん三重、四日市市総合会館、ばんこの里会館等で販売し、好評を博しています。令和 3 年度は新たに「みんなの和プリン」の開発も行いました。また四日市大学の授業協力等も行っており、令和 3 年度は NPO 論の授業で「外国人の人権（オールドカマー）」の協力を行いました。



今後の計画

市民活動のネットワークと大学との繋がりを生かし、よりよい地域づくりを目指します。

担当者：総合政策学部 特任教授 松井真理子

連絡先：電話：059-352-0010 メール：ssk21ww@yahoo.co.jp

8-3 一般社団法人 四日市大学エネルギー環境教育研究会

活動の目的と経緯

一般社団法人 四日市大学エネルギー環境教育研究会(以下、研究会)は、外部資金(省庁や企業助成金)を獲得して、「環境教育」「農福連携事業」「地域循環型社会づくり(里山保全)」の3事業を深化させ継続しながら、子どもから大人まで問題改善に取り組むための、社会貢献事業を行っています。

活動内容と実績

○当会は、令和2年8月に地元八郷地区の方に、地域に点々とある里山が孟宗竹の荒廃の拡大で課題改善のアンケート調査(回答率93%)を行いました。その経緯から「自分たちでは問題が大きすぎ安易に解決策を出せるものではない」など、多様なご意見がありました。早速に当時の八郷地区連合会長とお話し、趣旨・目的のご理解とご協力をいただきました。会員(現在11名)の快諾もいただき、令和3年3月4日から月1回の里山保全協議会の会議と竹林整備を開始しました。

○「竹粉を入れたお米の糖度トップ」中日新聞・読売新聞そしてNHKテレビに堂ヶ山町の古市善之氏や廣住先生とゼミ生そして当会が大きくクローズアップされました。東海各県各地からの反響が大きく驚きでした。安全で栄養豊富な農産物の栽培方法の普及を目指している(一社)日本有機農業普及協会が主催で糖度や水分量など4つの項目で高い成績を収めました。2017年～2018年にも他圃場でも、日本穀物検定協会の「食味官能試験」でも好成績を収めています。詳しくは(北勢地域における「持続可能な成長」とは?(2020.10発行)に掲載しています。

○永年、継続している環境教育実践は、公的機関や児童館や学童保育所の教育分野は、多い時で参加人数も約4000名を超えていましたが、コロナ禍により約1,500名程度減少しました。しかし、常に、新プログラムの開発やエネルギー教育誌への投稿も次から次へと取り組みました。人材育成は常に未来社会にむけて小さな時から、環境に即した実践をきっかけに環境問題を身に着けて未来へ向かっていってほしい重要な役割を担っています。

○農福連携事業は、NPO法人風の家、生活支援者(14名と関係者7名)らと年11回(筍ほり・畑作業・工作)を、通年通り実施しました。対象者は机上での作業が多いなかで、畑仕事は自然に触れ合うことができ、苗の植え付けから収穫までの過程の喜びや楽しさなど、社会に触れ合うことで成長・生きがいにつながっています。常に自然(異常気象)と土づくりや害虫駆除など、大変なことが多い中で精をだしながら進めています。

今後の計画

3事業の活動を深化させます。東海地域エネルギー教育検討会議・三重県新エネルギービジョン推進会議・三重県公共事業評価審査委員会・四日市教育委員会や四日市市科学教室へのご協力をします。

担当部門 : 一般社団法人 四日市大学エネルギー環境教育研究会
連絡先 : 電話 059-363-1414 メール : inf@yokkaichi-ene.com

8-4 四日市東日本大震災支援の会

活動の目的と経緯

東日本大震災の被災地の復興と国内外の大規模災害の支援を目的に、四日市大学が中心となって、大学生・高校生・一般市民とともに活動しています。東北では、2011年5月からは泥かきなどの災害ボランティア活動を、2012年からは仮設住宅の交流支援を行ってきました。また、東北だけでなく、継続的に災害発生した場合には災害ボランティア活動をしています。

活動内容と実績

支援の会では、2021年3月までに合計75回、延べ参加者は2,400人を超えました。2011年の設立以降、東紀州水害で被害を受けた三重県紀宝町、内水氾濫の被害を受けた四日市市内、京都府亀岡市の水害被害、関東・東北豪雨、熊本地震、西日本豪雨、台風19号災害で被害を受けた長野市でも災害ボランティアを派遣しました。

＜2020年度の被災地支援活動＞

★第75回活動(2020年10月16～18日；宮城県東松島市あおい地区芋ほりボランティア)

＜コロナ禍の影響で中止になった活動＞

★2020年6月12～14日；宮城県東松島市の災害公営住宅サロン活動

★2020年8月4～7日；三重県教委との連携事業；宮城県・福島県学校防災ボラ事業

＜2021年度の被災地支援活動＞

全く活動ができませんでした。

＜四日市市消防団（機能別団員）活動と防災士資格取得＞

防災士資格を取得または取得予定の大学1年生5名が2021年11月1日に入団し、継続して活動している11名とあわせて16名になりました。しかし、四日市市内の地域・学校での防災イベントで啓発活動や講話を行う予定ではありましたが、ほとんどの活動が中止または延期になりました。また、定期的に大学内で炊き出しや避難所運営の訓練を行ってきましたが、これらもできていません。2021年度の活動は、新入団5名の応急手当指導員資格研修と、防災士養成研修講座（地域科目「地域防災」の一部）において、普通救命講習の指導でした。

今後の計画

コロナの感染状況を考慮しながら、宮城県東松島市、福島県葛尾村、熊本県西原村の支援活動と、近隣で発生する災害ボランティア活動を再開します。また、三重県・四日市市などと連携し、三重県における地域防災についても貢献する予定です。

担当組織：四日市東日本大震災支援の会

連絡先：総合政策学部教授 鬼頭浩文 電話：059-340-1902 メール：kito@yokkaichi-u.ac.jp

8-5 メディアネット四日市

活動の目的と経緯

昨今、技術進歩によって急速に通信速度が高速化して、視聴されるコンテンツが通信（インターネット）および放送において画期的に変革が遂げられ、ますます動画の利用が図られることが期待されています。

発足 12 年を迎えるメディアネット四日市は、そんな四日市での動画を通じた活動の数々を、幅広い年齢層の地域の皆さんに知っていただくべく、映像作成を続けています。

また近年はインターネットやスマホなどの普及により、誰もが気軽に動画を制作でき、そして動画を多くに人々に見ていただける環境が整っています。

そんな時代にあってメディアネット四日市では、より多くの地域の皆さんに、個人及び団体の活動や思いを伝えられるような動画を作っていただけのように、地域の映像作り文化の普及に向けた活動も継続的に行っています。



活動内容と実績

当会は四日市の産官学や市民活動団体からの依頼を受けるなどの形で、四日市のイベント・文化・伝統・各地域のまちづくり、催し物等を紹介する動画を作成しています。

そして作成した映像は、当会のホームページ (<http://medianet-yokkaichi.com>) や映像ポータルサイト「よっかいち映像広場 (<http://yokkaichi.tv>)」などのインターネットを通じて情報発信し、より多くの地域の人々に四日市のよさを知っていただくべく取り組みを行っています。

また、今年度は、新しく二つの分野において活動を始めました。一つ目は、昨今の少子高齢化社会において、高齢者の健康寿命を延ばし、認知症を予防して、高齢者の新たな生きがいをづくりにつながるような動画を発信し、高齢者のお役にたてることを目的としたものです。二つ目は、昨今の最新機器であるドローを使用するの災害時における各地域の災害情報をリアルタイムで各地域から発信できるよう講習会を開始しました。

今後の計画

昨今のスマホおよびタブレットの普及に対応した動画に関する活動を、新たな軸として更に進めていこうと思っています。そのためには、広く産官学および地域の多くの住民に知っていただき、地域を愛する心を育み、社会に貢献していただきたいと願います。それにより、ますます四日市の良さを地域の皆様とともに再発見していければと考えています。

担当部門 : メディアネット四日市

連絡先 : 久保田領一郎 電話 059-329-6020 メール : medianet@aurora.ocn.ne.jp

資料A 学外委員会での活動（委員会名・役職名のリスト）

令和3年度

資料は四日市大学に委嘱届の提出されたもののみを示します。この他に学外組織の委員を務めている場合もあります。

氏名	派遣先	内容
岩崎 恭典	四日市市文化まちづくり財団	評議員
	桑名市	桑名市空家等対策協議会委員
	桑名市	桑名市地域づくり支援制度アドバイザー
	鈴鹿市	鈴鹿市地域づくり支援制度アドバイザー
	亀山市	亀山市まちづくり基本条例推進委員会委員長
	伊賀市	伊賀市地域活動支援事業審査会委員長
	松阪市	松阪市総合計画評価委員会会長
	伊勢市	伊勢市ふるさと未来づくり推進委員
	尾鷲市	尾鷲市情報公開審査会委員
	尾鷲市	尾鷲市個人情報保護審査会会長
	尾鷲市	尾鷲市総合計画審議会会長
	東員町	東員町地域公共交通会議委員・座長
	菰野町	菰野町学校給食検討会委員長
	朝日町	朝日町地方創生推進会議委員
	三重県	みえメディカルバレー推進代表者会議委員
	三重県	三重県南部地域活性化推進協議会委員
	三重とこわか国体・三重とこわか大会	実行委員
	愛西市	行政アドバイザー
	北名古屋市	北名古屋市行政改革推進委員会委員長
	岩倉市	岩倉市行政経営プラン推進委員会委員長
	岩倉市	岩倉市自治基本条例推進委員会委員長
	川西市	川西市参画と協働のまちづくり推進会議委員長
	大口町	大口町行政経営審議会委員
	鹿児島県	鹿児島県コミュニティ・プラットフォーム整備促進事業アドバイザー
	国際環境技術移転センター	評議員
	三重大学大学院	教育学研究科教職大学院運営協議会委員
四日市北ロータリークラブ	会員	
小林 慶太郎	四日市市	四日市市総合評価方式事後評価委員会委員長
	四日市市	四日市市多文化共生推進市民懇談会座長
	四日市市	四日市市公契約審議会会長
	亀山市	亀山市地域ブランド推進協議会委員
	三重県	三重県男女共同参画審議会専門委員
	三重県	三重県農村地域資源保全向上委員会
	三重県	三重県人権施策審議会委員
	三重県教育委員会	三重県教育改革推進会議会長
	三重県地方自治研究センター	副理事長
	朝日町	新庁舎建設基本構想策定委員会委員
	東員町	東員町教育委員会事務事業評価委員会会長
	長久手市	長久手市みんなで作るまち条例検証会議委員
	四日市港管理組合	公正入札調査委員会副委員長
	日本私立大学連盟	教学担当理事者会議幹事会委員
	四日市とんてき協会	代表理事
	CTY-FM	番組審議委員会委員長

氏名	派遣先	内容
松井真理子	四日市市	四日市市男女共同参画審議会委員長
	四日市市	四日市市人権施策推進懇話会委員長
	四日市市	四日市市立図書館協議会委員
	四日市市	四日市市障害者施策推進協議会委員長
	四日市市	四日市市ごみ減量等推進審議会委員長
	亀山市	亀山市協働事業選定委員会委員長
	亀山市	亀山市市民参画協働事業推進補助金選定委員会委員長
	亀山市	亀山市地域活性化支援事業補助金選定委員会委員長
	三重県	みえ地方創生多分野産学官連携推進会議委員
	三重県	三重県多文化共生推進会議委員長
	環境創造研究センター	環境省中部環境パートナーシップオフィス運営会議委員
鬼頭浩文	四日市市	四日市市民大学企画運営団体審査会審査委員
	四日市港管理組合	四日市港管理組合公正入札調査委員会委員
	四日市公害と環境未来館	四日市公害と環境未来館協議会副会長
	三重県四日市地域防災総合事務所	三泗地区1市3町広域避難に関する検討会議委員
鶴田利恵	四日市港管理組合	四日市港港湾審議会委員
	三重県	三重県固定資産評価審議会委員
	名古屋市	名古屋市上下水道事業経営有識者会議メンバー
	名古屋港管理組合	名古屋港審議会委員
加納光	三重県国際交流財団	評議員
永井博	四日市市	四日市市文化功労者選考委員会委員
	三重県立四日市商業高等学校	学校関係者評価委員
	三重県立いなべ総合学園高等学校	学校関係者評価委員
富田与	四日市市	四日市市立三重西小学校コミュニティスクール運営委員会委員長
	三重県	三重県政府調達苦情検討委員会委員
	三重県立北星高等学校	学校関係者評価委員
岡良浩	四日市市	四日市市開発審査会委員
	四日市市	四日市市入札監視委員会委員
	鈴鹿市	鈴鹿市都市計画審議会専門委員
	四日市商工会議所	四日市商工会議所選挙管理委員会委員
	三重県	みえメディカルバレー企画推進会議委員
	三重県	三重県公共事業評価審査委員会委員
	三重県建設技術センター	三重県市町公共事業評価審査委員会委員
	三重県北勢地域地場産業振興センター	評議員
奥原貴士	三重県	三重県公益認定等審議会委員
三田泰雅	四日市市	四日市市情報公開・個人情報保護審査会委員
	桑名市	桑名市都市計画審議会委員
	桑名市	桑名市上下水道事業経営審議会委員
	いなべ市	いなべ市情報公開・個人情報保護審査会委員
	桑名・員弁広域連合	桑名・員弁広域連合情報公開審査会委員
	三重県	三重県男女共同参画審議会委員
	三重県	みえ森と緑の県民税評価委員会委員
若山裕晃	三重とこわか国体・三重とこわか大会	第76回国民体育大会競技役員
小泉大亮	愛西市	愛西市健康なまちづくり事業推進委員会委員
千葉賢	四日市市教育委員会	E S D推進会議 委員

氏 名	派 遣 先	内 容
千 葉 賢	三重大学	大学院生物資源学研究科附属練習船教育関係共同利用運営協議 会委員
	三重県	三重県海岸漂着物対策推進協議会委員
	三重県	伊勢湾再生連携研究事業委員
	三重県	三重県環境審議会水質部委員
	愛知県	愛知県海岸漂着物対策推進協議会委員
	岐阜県	岐阜県海岸漂着物対策推進協議会委員
	中部整備局	伊勢湾流域別下水道整備総合計画検討委員会委員
木 村 眞知子	四日市市	海外向けシティプロモーション映像制作業務委託プロポーザル 審査員
	三重県	第76回国民体育大会三重県準備委員会広報・県民運動専門委員 会委員
	三重県	三重県屋外広告物審議会委員
	三重県広報協会	令和3年度三重県広報コンクール審査員
牧 田 直 子	桑名市	桑名市環境審議会委員
大八木 麻希	三重県	伊勢湾再生連携研究事業委員
	三重県	三重県環境審議会委員
	三重県	三重県環境影響評価委員会委員
	三重県	三重県公共工事等総合評価意見聴講会委員
岩 崎 祐 子	四日市市	四日市市教育施策評価委員会委員
	四日市市	四日市市雇用優良事業所選考委員会委員
	四日市市	四日市市優秀技能者選考委員会委員
	四日市市	四日市市男女がいきいきと働き続けられる企業選考委員会委員
	四日市市	四日市市下水道事業運営委員会委員
	四日市市	四日市市公共下水道管路施設包括維持管理業務委託におけるプ ロポーザル審査委員会委員
	四日市市	日本浄化センター他42施設維持管理包括的民間委託におけるプ ロポーザル審査委員会委員
	四日市市	四日市市特別職報酬等審議会委員
	桑名市	桑名市市政功労者表彰審査委員
	三重県立川越高等学校	学校関係者評価委員
	三重県	三重県産業功労者表彰候補者選考委員会委員
	三重県	三重県信用保証協会外部評価委員会委員
	三重県	三重県国民健康保険運営協議会委員
	三重県	三重県公私立高等学校協議会委員
	名古屋国税局	名古屋国税局土地評価審議会委員
杉 谷 克 芳	高齢・障害・求職者雇用支援機構三重 支部	運営協議会委員長
小 田 久 洋	公益財団法人日本高等教育評価機構	評価委員
	公共職業安定所	公正採用選人権啓発推進員
	三重とこわか国体・三重とこわか大会 四日市市実行委員会	実行委員
伊 藤 直 司	三重県サッカー協会	理事・学生連盟委員長
	東海学生サッカー連盟	監事
佐 藤 信 行	桑名市テニス協会	役員
	第76回国民体育大会	第76回国民体育大会競技役員
黒 田 司	三重県野球協議会	強化育成部会 副部長
	東海地区大学野球連盟	常任理事（三重県担当）

資料B 学外での講演活動等

令和3年度

氏名	派遣先	内容
岩崎恭典	四日市市	地域づくりマイスター養成講座 講師
	三重県	東紀州「地域人材」養成塾 講演講師
	三重県市町総合事務組合	令和3年度ワンステップ研修Ⅰ（基礎研修）講師
	鹿児島県	共生・協働推進かごしま自治体ネットワーク会議 講師
	兵庫県自治研修所	令和3年度市町管理職研修 講師
	三重県立桑名北高等学校	高大連携セミナー 講師
小林慶太郎	四日市市	令和3年度四日市市熟年大学専攻課程 講師
	学校法人鈴鹿享栄学園鈴鹿中等教育学校	2年生総合的な学習特別講演 講師
	岩倉市	職員協働研修
松井真理子	四日市市	令和3年度四日市市熟年大学教養課程 講師
	亀山市	亀山市協働研修会 講師
鬼頭浩文	四日市市	令和3年度四日市市熟年大学教養課程 講師
	四日市市	学校安全担当者研修会 講師
	三重県立北星高等学校	令和3年度「総合的な探求の時間 防災学習」講師
	四日市市立西朝明中学校	防災@にしあさけ2021 講演講師
三田泰雅	四日市看護医療大学	大学院FD研修会 講師
小泉大亮	三重県生涯学習センター	みえアカデミックセミナー2021 講師
永井博	四日市市	令和3年度四日市市熟年大学専攻課程 講師
関根辰夫	四日市市文化まちづくり財団	Yokkaichi Teen's Music Fes2021 審査員
牧田直子	三重大学	令和3年度三重ジュニアドクター育成塾 講師
廣住豊一	三重大学	令和3年度三重ジュニアドクター育成塾 講師
大八木麻希	三重大学	令和3年度三重ジュニアドクター育成塾 講師
	石川県高等学校文化連盟	高校生のための秋の実験・実習セミナー 講師
黒田淳哉	四日市市立博物館	2021年度宇宙塾 講師
伊藤直司	NHK津放送局	第25回三重県サッカー選手権大会・第100回天皇杯代表決定戦 解説者
黒田司	三重テレビ放送株	2021年度全国高等学校野球選手権大会三重大会 解説者

四日市大学社会連携報告書 2021年度(令和3年度)版

制作 四日市大学社会連携センター

